



# カナダ・アサバスカ大学(AU)

## 現状調査の報告

2017年10月



カナダ・アサバスカ大学（AU）の  
現状調査の報告

2017年10月

## 目次

はじめに	1
<b>第1部 カナダ・アルバータ州及びアサバスカ大学の背景</b>	
1. カナダ・アルバータ州の概要	5
2. アルバータ州概況	6
3. アルバータ州の高等教育について	7
4. 外部団体による質保証	8
5. アサバスカ大学の歴史	8
<b>第2部 アサバスカ大学の概要</b>	
1. 大学概要データ	11
2. 学部・研究施設等	12
3. 組織：事務局等	13
4. 施設	14
5. 財政関連	16
6. 人事関連	16
7. 広報活動	17
<b>第3部 アサバスカ大学の教育システム</b>	
1. 入学要件 Admission Requirements	21
2. 授業形式 Course Settings	21
3. 出願 Application	21
4. 入学・コース登録 Enrollment/Course Registration	22
5. 授業料ほか費用 Tuition & Fees	23
6. コースパッケージ Course Packages	24
7. 単位 Credit	24
8. 学生サービス Student Support	25
9. 障がい学生支援 ASD=Access to Students with Disabilities	25
10. 授業・指導教員の評価 Course/Tutor Evaluation	26
11. 筆記試験 Examinations	26
12. 学習評価 Grading & Evaluation	28
13. 卒業 Graduation	29

## 第4部 アサバスカ大学調査訪問

### 第1日目：2017年10月12日（木）

1. Opening Remarks 開会挨拶 Rick Harland 副学長 …………… 34
2. OUJ Presentation 放送大学の概要説明及び意見交換 …………… 35  
岩永附属図書館長、山田教授
3. Learner Support Services 「学習者サポート」 …………… 36
  - ① 学業アドバイス コーディネーター Serita Smith 氏
  - ② 障がい学生サポート 支援技術者 Carrie Anton 氏
4. Exploring Research Synergies 「研究シナジーの探求」 …………… 44  
Dr. Donna Romyn 準副学長（研究担当）
5. AU Course Development 「オンラインコース開発について」 …………… 54  
科学・技術学部 シニアシステムアナリスト Hongxin Yan 氏
6. Mobile Learning and Augmented Reality 「モバイル学習と拡張現実」 …………… 58  
遠隔教育センター Mohamed Ally 教授
7. Teaching Presence 「教育の現場」 …………… 65  
遠隔教育センター長 Marti Cleveland-Innes 教授

### 第2日目：2017年10月13日（金）

8. AU Tour アサバスカ大学本部施設見学 …………… 73  
科学センター Robert G. Holmberg 名誉教授、Martin Connors 教授
  9. AU Information Centre 「インフォメーションセンター」 …………… 76
    - ① インフォメーションセンター コーディネーター Carla Yeaman 氏
    - ② 連携・学生募集 ディレクター Jessica Scott 氏
  10. Quality Assurance at AU 「AUにおける質保証について」 …………… 82  
IR室 ディレクター Nancy K. Parker 博士
  11. AU Library & Scholarly Resources 「AU図書館と学術資源について」 …………… 88
    - ① 図書・学術情報資源 ディレクター Elaine Fabbro 氏
    - ② 図書サービス ウェブ事業サービス マネージャー Colin Elliot 氏
  12. Signing of the Agreement 大学間協力交流協定書の締結 …………… 92
- おわりに …………… 93
- 資料：放送大学の訪問スケジュール（Program Schedule） …………… 97  
開会挨拶文（Welcome Address） …………… 99  
一般事項比較表 …………… 107

## はじめに

2017年現在、放送大学は世界各国の公開大学や遠隔教育を行う11の高等教育機関と協力交流協定を締結している。カナダ・アサバスカ大学とは、本学にとって初めての海外の大学との協定として、1992年9月に協力交流協定を締結している。両大学は、その後数年間、本学学生の英語研修旅行やアサバスカ大学学生の日本での研修旅行等のプログラムを実施し、活発に交流してきたが、1995年を最後に学生交流も途絶えたままになっていた。その後はアサバスカ大学学長のシンポジウムのための来学や本学教員の個人的な調査訪問が散発的に行われたに過ぎなかった。

カナダ唯一の遠隔公開大学であるアサバスカ大学では、2016年10月に Neil Fassina 新学長が着任し、新体制が確立されていた。そのような折、両学が加盟する国際遠隔教育会議 (ICDE) のリーダーシップ・サミットが2017年5月にフランスで開催され、参加した本学池田副学長と Fassina 学長が会談したことをきっかけに、両学の交流を復活させ、新たな協力関係を模索することが合意されたのである。

その後、協力交流協定の再締結に向けて本学から Fassina 学長に連絡を取り、窓口である連携・学生募集課との度重なる連絡・調整を経て、2017年10月12日と13日に、岩永雅也 附属図書館長、山田恒夫情報コース教授、神研二郎総務課長補佐の3名が、アルバータ州内3か所にキャンパスを持つアサバスカ大学のエドモントン・サテライトキャンパス及びアサバスカ本部を訪問することとなった。訪問した2日間で、主要部署の各担当者からの説明及び情報提供を受けるとともに、活発な意見交換を行い、本学の諸問題の改善等に活かすための十分な情報収集を行うことができた。また、相互の友好関係の基礎も据えることができたように思う。今後は、オンライン授業に関連した両学の共同研究と共同開発、障がい者支援のための情報交換なども視野に入れ、教職員や教材の交流等が積極的かつ活発に行われていくことを心から期待するものである。

2018（平成30）年2月9日

# 第 1 部

## カナダ・アルバータ州及び アサバスカ大学の背景

調査方法：第 1 部の情報は、アサバスカ州政府等のウェブサイトに記載された英語情報を、総務課国際連携係において要約し日本語訳したものである。

## 1. カナダ・アルバータ州の概要

アルバータ州は、アメリカ合衆国から連なる大平原地方3州の西端に位置し、南はアメリカ合衆国、西はブリティッシュ・コロンビア州接する。南西部がカナディアンロッキーの山脈で州域が区切られる以外は、全て経緯線で区画され、州都はエドモントン。最大都市のカルガリー市とエドモントン市の人口は、2011年には州全体の65%を占める。

18世紀には毛皮等の取引が盛んであったが、19世紀には牧草業や穀物生産に発展した。1870年にハドソンベイ社からカナダ自治領に移譲され、1871年にはノースウェスト准州となり、1905年にはアルバータ州に昇格した。州名はイギリスのビクトリア女王の王女ルイーゼ・アルバータにちなむ。

1947年には州都エドモントン地域で石油が発見され、1970年代及び2000年代の石油価格の急騰により、アルバータ経済は急速な成長を遂げた。現在では、非燃料鉱業、農業、観光とともに州経済を支えている。また、オイルサンド鉱床も発見されているが、急速に進む開発に対し近年は自然保護の規制が行われるようになった。

アルバータ州の経済が燃料鉱業に大きく依存しているため、原油価格と失業率が強く結びついている。20世紀初頭からヨーロッパからの入植者により人口が増えたが、1970年代以降は、アジアからの移民が増加し続けている。

情報：<https://www.historicacanada.ca/>



※「Political map of Canada」<https://commons.wikimedia.org/>を加工して作成

## 2. アルバータ州概況

人口：412 万人（2014 年）

面積：661,848 平方 km（日本の 1.75 倍）

州都：エドモントン

主要産業：天然資源…石油、天然ガス、石炭

農業…穀物（小麦、大麦）、カノーラ、畜産（牛、豚）

工業…石油化学、木材・紙パルプ、通信機器、工業機械

実質 GDP：3201 億加ドル（2014 年）

実質 GDP 成長率：4.8%（2014 年）

消費者物価指数（2002 年=100）： 133.8 （2016 年 2 月）

失業率： 7.9%（2016 年 6 月）

貿易額（輸出）：約 927 億加ドル（2015 年）

（輸入）：約 294 億加ドル（2015 年）

貿易相手国（2015 年）

（輸出）：米国 中国 日本 メキシコ 韓国

（輸入）：米国 中国 メキシコ ドイツ 英国

情報：在カルガリー日本国総領事館 HP

[http://www.calgary.ca.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/00\\_000072.html](http://www.calgary.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000072.html)



※「Alberta map」<https://commons.wikimedia.org/>を加工して作成



### 3. アルバータ州の高等教育について

OECD Labor Force Statistics 2017 によれば、カナダでは少子高齢化が急激に進んでおり、2017 年現在カナダの失業率が 6.7%であるが、2020 年には定年退職人口が若い労働力人口を大幅に上回ることにより 0%となると予測される。

カナダ政府は地域経済の発展に繋がることを期待し、高等教育機関への外国人留学生を積極的に受け入れている。アメリカ、イギリス、オーストラリアといった他の英語圏の国と比べ、カナダの学費は安く、そして高質の教育を受けられる国としての認知が高い。また、高等教育機関での学位取得後、一定期間の職業訓練を受けると永住権が得られるプログラムもあり、近年の大学の学位取得率が国全体で 3%程度毎年上昇している。

アルバータ州は、豊富な鉱物資源及び観光資源に恵まれている。そのため、将来の労働力確保に積極的で、州内の高等教育機関卒業生の移民受入や、州民の失業率の改善と年収の増加のために高等教育を推奨する等、州政府が高等教育を推進・支援している。

アルバータ州には、州政府が設立及び運営を助成する公立の高等教育機関が 26 ある。2002 年には、Post-Secondary Learning Act (高等教育学習法) にもとづいて「キャンパス・アルバータ」というシステムが構築され、州内の高等教育機関同士の協力により高品質な教育を発展させ、このシステムを通じて州民が学習する機会を確実に得られることを目指している。

キャンパス・アルバータにおけるオンラインサービス (外国からも利用可能)

- ① 入学手続き (Apply Alberta System)
- ② 単位互換手続き (Transfer Alberta System)
- ③ 電子図書館サービス (Lois Hole Digital Library System)
- ④ 州政府提供の学生ローンおよび奨学金申し込み (Alberta Student Aid System)

26 高等教育機関のうち、公立大学 (Publicly Funded University) は 6 大学、私立大学が 5 大学存在する。州政府の高等教育省 (Ministry of Advanced Education) からの助成額及び内容は、機関によって異なる。

情報 : アルバータ州政府 HP <https://www.alberta.ca/>

#### 4. 外部団体による質保証

アサバスカ大学は、米国の高等教育機関質保証団体である中部高等教育委員会（MSCHE : Middle States Commission on Higher Education）によって認定されたカナダ初の大学である。MSCHE は米国教育長官（United States Secretary of Education）及び高等教育認定評議会（Council for Higher Education Accreditation）が認定した保証団体で米国内の大学を中心に教育の質を保証するが、米国外では英国オープン・ユニバーシティやアサバスカ大学等、計 19 大学の認定に留まる。

情報：中部高等教育委員会 HP <https://www.msche.org/>

また、アサバスカ大学 HP によると、カナダ・ブリティッシュコロンビア州、カリフォルニア州やニューヨーク州を含む米国の計 17 の州政府も、アサバスカ大学の学位を認めている。

#### 5. アサバスカ大学の歴史

アサバスカ大学は 1970 年 6 月 25 日、アルバータ州政府の法律により通学制大学として開学したが、その後 1972 年には、アルバータ州政府の方針である「オープンな遠隔教育を行う大学」のパイロット事業に参加することで遠隔教育に転身した。1973 年に遠隔教育最初のコースとして「World Ecology」を開講し、1977 年には最初の卒業生を送り出した。1978 年 4 月 12 日には州内 4 番目の公立大学となった。

1984 年までに、アサバスカ大学はエドモントン市内に施設を拡大したが、当時のアルバータ州の機能分散化及び州北部の先住民族への支援政策により、エドモントン市から北に 145 km 離れたアサバスカ町（人口約 3 千人）へ移転することとなった。また、サテライトキャンパスがカルガリー市、エドモントン市、フォートマクマレー市（2000 年に閉鎖）の 3 か所に設立された。

1980 年代には、高等教育を「どこでも、いつでも」提供するために、新しい配信方法を活用する方針を継続し、学内に設立された Centre for Innovative Management がコンピュータを使った MBA コースを世界で初めて開講した。

情報：アサバスカ大学 HP

<http://www.athabasca.ca/aboutau/history/>

## 第 2 部

# アサバスカ大学の概要

調査方法: 第 2 部の情報は、主にアサバスカ大学ホームページに記載された英語情報を、総務課国際連携係において要約し日本語訳したものである。

アサバスカ大学はカナダ唯一の公開大学として、国内外に向けてインターネットを中心に高等教育を提供している。大学レベルの教育を世界中の成人学習者のため提供すること、そして、公平な学習機会を妨げるバリアを取り除くことをミッションとし、卓越した教育、研究、奨学金によって一般市民に奉仕している。

## 1. 大学概要データ

### 全体について

- 4万人以上の学生が在籍
- 芸術、科学、各専門分野で 55 プログラムと 850 以上のコース（学部・大学院）
- 年度予算は1億3千万加ドル（約120億円）
- 1,350名以上の教職員を雇用
- カナダ国内外 350以上の高等教育機関と協力連携

\*アサバスカ大学 2017 年次報告書によると、2016-2017 年の教職員数は計 1,133 名となっている

### 在学生について

- カナダ国内の全ての州・準州、及び海外 87 か国に在学生。
- 平均年齢は学部生 29 才、大学院生 39 才。
- 83 パーセントが在学中に仕事を持つ。
- 67 パーセントが女性。
- 50 パーセントの卒業生が家族を扶養。
- 70 パーセントの卒業生が家族初の大学卒業生。

\*アサバスカ大学 2017 年次報告書によると、最多の学生居住州はアルバータ州、次いでオンタリオ州。この 2 州の合計で全学生の 2/3 以上を占める。

情報：アサバスカ大学 HP <http://www.athabascau.ca/aboutau/glance/>

## 2. 学部・研究施設等

アサバスカ大学には、5つの学部と各分野の研究のためのセンターが設置されている。

### Faculty of Business ビジネス学部

- Undergraduate Courses and Programs 学部コースと学士課程
- Masters Programs 修士課程
- Doctoral Programs 博士課程
- Leadership and Management Development リーダーシップ&マネジメント開発

### Faculty of Health Disciplines 健康専門学部

### Faculty of Humanities & Social Sciences 人文学・社会科学学部

- Centre for Humanities 人文学センター
- Centre for Interdisciplinary Studies 学際的研究センター
- Centre for Social Sciences 社会科学センター

### Faculty of Science & Technology 科学・技術学部

- Centre for Science 科学センター
- RAIC Centre for Architecture カナダ王立建築学会建築学センター
- School of Computing & Information Systems コンピューティング&情報システム学校

### Faculty of Graduate Studies 大学院

- Graduate Programs 大学院プログラム（修士課程7、博士課程2）

### Other Centres その他のセンター

- Centre for Distance Education 遠隔教育センター
- Centre for Learning Accreditation (PLAR) 単位認定センター
- Research Centre 研究センター
- Centre for World Indigenous Knowledge & Research 世界の先住民のための知識研究センター

情報：アサバスカ大学 HP <http://www.athabascau.ca/aboutau/faculties/>

### 3. 組織：事務局等（アルファベット順）

アサバスカ大学の HP 及び紹介パンフレット等には、日本の大学に見られるような組織図がなく、以下のような部署の並列の紹介に留まり、各部署の帰属関係は不明である。

- AU Press AU プレス
- Access for Students with Disabilities 障がい学生サポート
- Advising Services 学業アドバイス
- Alumni Relations 同窓会関連
- Brand & Marketing ブランド・マーケティング（知名度向上）
- Centre for Learning Accreditation (PLAR) 単位認定センター
- Convocation (Events Office) 学位記授与式（イベント事務所）
- Counselling Services 学生カウンセリング
- Course Materials Production コース教材制作
- Development and External Relations 開発と対外関係（産学連携）
- Examination Services 試験運営
- Facilities 施設管理
- Financial Services 学生の納付金等の財務
- Human Resources (Career Opportunities) 人事（学生キャリア相談）
- Institutional Records Management 組織所有の記録管理
- Learner Support Services 学習者サポート
- Learning Services – Tutorial 個別学習指導
- Library Services 図書サービス
- IT Help Desk IT ヘルプデスク
- Office of the President 学長室
- Office of the Registrar 学籍管理室
- Office of the University Secretariat 大学秘書室
- Office of the Provost and Vice-President, Academic 学務担当副学長室
- Office of the Vice-President, Finance Administration 財務担当副学長室
- Office of the Vice-President Information Technology & Chief Information Officer IT・広報担当副学長室
- Office of the Vice-President, University Relations 対外関係担当副学長室
- Ombuds Office オンブズマン（相談）室
- Partnerships & Student Recruitment 連携・学生募集
- Student & Academic Web Services 学生・学習ウェブサービス
- Thomas A. Edge Archives & Special Collections 文書資料・特別コレクション

情報：アサバスカ大学 <http://www.athabasca.ca/aboutau/offices/>

#### 4. 施設

アサバスカ大学には、アサバスカ本部のほかアルバータ州内の 2 大都市（エドモントン、カルガリー）にサテライトキャンパスが設置されている。平日の 8:30～16:30 に開所し、毎月実施される単位認定試験の会場としているほか、入学希望者、在学生への対応の場としても使用される。サテライトキャンパスには学生が自由に利用できる施設及び学習スペースはなく、代わりにアサバスカ本部の図書館内に設けられているが、都市部から離れていることもあり、訪問者は 1 日に数人程度である。

##### アサバスカ本部 AU Athabasca

住所：1 University Drive, Athabasca, AB T9S 3A3

アサバスカ大学の本部は、アルバータ州の地理的な中央に位置する人口 3 千人のアサバスカ町の山の中腹にあり、約 600 名の教職員が本部建物内または近隣の自宅等で勤務している。木々に囲まれ広大な公園内のような佇まいで、学長の公舎もある。

アサバスカ町の本部施設の近隣には印刷教材の配送センターがあり、過去には多くの職員を雇用し、学生への教材配送の中心だったが、オンライン化が進み送付物も大幅に減少した現在は、その建物の他目的での活用方法を検討中である。



##### エドモントン・サテライトキャンパス AU Edmonton

住所：Peace Hills Trust Tower, 12th Floor, 10011

109 Street, Edmonton, AB T5J 3S8

エドモントン市中心部の 12 階建ての建物のうち 8 階、11 階、12 階を使用し、110 名以上の教職員が勤務する事務所である。学生が立ち入ることができるのは、エレベータ・ホールと受付カウンターまでとなっている。



\*この他エドモントン市内には、セント・アルバート市から数年前に移転して来た、大学院のビジネス学部が拠点を置いている。

ビジネス学部 Faculty of Business

住所：201, 13220 St Albert Trail, Edmonton, AB T5L 4W1

エドモントン市内の拠点が 2 か所に分かれていることでの不便の解消及び経費削減のため、2020 年を目処にエドモントン市内の新キャンパスに統合移転する計画がある。大学としては、移転費用に関してアルバータ州からの財政支援を求めており、その内容についての交渉を進める必要があるとのこと。

カルガリー・サテライトキャンパス AU Calgary

住所：6th Floor, South Campus  
345 – 6 Avenue SE, Calgary  
AB T2G 4V1

カルガリー市中心部に位置する Bow Valley College の 6 階を使用した事務所で、約 20 名の教職員が勤務している。ただし、単位認定試験等で扱う在学生数は最多で、一部の副学長や教員の拠点ともなっている。



情報：アサバスカ大学 HP キャンパス <http://www.athabascau.ca/contact/campuses/>



## 5. 財政関連

### 年度予算と収支

アサバスカ大学 2017 年次報告書によると、2016 年度の収入は、前年度より 3.6% = 480 万加ドル (約 4 億 3200 万円) 増加し、1 億 3740 万加ドル (約 123 億 3000 万円)。支出は 1 億 3380 万加ドル (約 120 億 420 万円) で、余剰金は 370 万加ドル (約 3 億 3300 万円) となっている。(1 加ドル=90 円で換算)

収入 1 億 3740 万加ドルの内訳は、学費収入が 49%、アルバータ州助成金が 36%、学習教材販売が 10%となっている。アサバスカ大学の設立当時、アルバータ州政府からの助成は収入全体の 7 割程度だったが、その後減少し現在に至る。

支出 1 億 3380 万加ドルの内訳は、人件費が 67%で最も多く、次いで施設・ICT 機器等の管理や維持費が 13%、研究・事業の実施や教材の開発費が 10%となっている。

情報：アサバスカ大学 Annual Report 2016-17

<http://www.athabascau.ca/aboutau/documents/annual/report2017.pdf>

## 6. 人事関連

### 教職員数

アサバスカ大学 2017 年次報告書によると、2016 年度 (2016 年 4 月～2017 年 3 月) の教職員は合計 1,133 名で、うち教員 (チュータ除く) は 205 名となっていて、過去数年の雇用者数はほぼ横ばいである。

Academic Full-Time 常勤教員	Academic Part-Time 非常勤教員	Tutors チュータ	Professional 事務専門職	Management And Executive 幹部	Support And Temporary 補助・臨時	Casual 臨時(短期)	Total 合計
179	26	354	242	23	244	65	1,133

### 勤務地の分布

遠隔教育を行う性格上、ある特定の場所 (本部及びサテライトキャンパス建物内) で勤務する必要のある教職員は半数程度であり、自宅等で勤務する教職員も多い。

アサバスカ本部	エドモントン	カルガリー	自宅等	その他	合計
409	111	23	585	5	1,133

情報：アサバスカ大学 Annual Report 2016-17

<http://www.athabascau.ca/aboutau/documents/annual/report2017.pdf>

## 7. 広報活動

Brand & Marketing (ブランド・マーケティング) が電子メディアを通じて、大学の知名度向上や提供する教育内容やイメージを広く社会に伝え、大学の価値を高めるための広報活動を行っている。具体的にはマスメディアの活用として、カナダ国内移動の主流である航空会社、例としてエア・カナダ機内誌等に広告を掲載している。

情報：アサバスカ大学ブランド・マーケティング

<http://www.athabascau.ca/aboutau/offices/communications/>

## 第 3 部

# アサバスカ大学の教育システム

調査方法: 第 3 部の情報は、主にアサバスカ大学ホームページに記載された英語情報を、総務課国際連携係において要約し日本語訳したもの及び 2017 年 10 月 12～13 日のアサバスカ大学訪問中に入手した情報である。

## 1. 入学要件 Admission Requirements

- 学部→16歳かそれ以上の年齢であること。
- 修士→学士号取得者であること。
- 博士→修士号取得者であること。

\*カナダ国内に居住しない外国籍の者も入学可能だが、滞在ビザの取得は不可。

情報：<http://www.athabascau.ca/admissions/requirements/>

## 2. 授業形式 Course Settings

アサバスカ大学の教育及び学習は、基本的に Individualized Study（個人別の学習）となっているが、学術的な理由等から Grouped Study（グループ学習）を開講するコースもいくつかある。

### Individualized Study（個人別の学習）

オンライン授業として 850 科目以上のコースが開講されている。毎月初めに授業が開始され、ほとんどのコースの受講期間は 6 か月間である。もし、受講期間内に単位を取得できない場合は、追加料金を支払うことで期間の延長が可能（2 か月の延長が 3 回まで=最大 6 か月）となっている。

情報：<http://calendar.athabascau.ca/undergrad/2017/adm-reg-eval/reg-ind-study.php>

### Grouped Study（グループ学習）

オンライン授業及び面接授業が、主に都市部にある協力協定締結機関にて開講されている。面接授業は 1 セメスター期間（4 か月間）で設定され、9 月～12 月及び 1 月～4 月の開講が一般的であり、受講期間延長は不可である。

情報：

<http://calendar.athabascau.ca/undergrad/current/adm-reg-eval/reg-gr-study.php>

<http://partnership.athabascau.ca/students/study/index.php>

## 3. 出願 Application

### 学部

アサバスカ大学の学部への出願は常時可能であり、学士号取得を目指すプログラムへの入学、または科目（コース）ごとの受講が選択できる。どちらも、ウェブ上で出願する。カナダ国内の居住者は、毎月 10 日までに申請すると、翌月 1 日の入学となりコース登録・受講が可能となる。カナダ国外の居住者は、学習開始希望日の 1 ヶ月前までに

入学手続きが必要である。

情報：<http://www.athabascau.ca/admissions/applying-undergraduate/>

#### 大学院

学部と異なり、大学院プログラムには入学時期が設定されている場合が多いため、大学は出願時期を確認するように注意を呼びかけている。出願時には出願料を支払い、各プログラムの専用出願申請書及び必要書類も提出する。過去に所属した教育機関からの証明書等も手配が必要なこともある。出願が受理されると、入学許可の連絡が出願者に届く。なお、学位取得を目指すプログラムではなく 1 科目のみ受講も可能で、その場合の出願要件は特にない。

情報：<http://www.athabascau.ca/admissions/applying-graduate/>

#### 4. 入学・コース登録 Enrollment/Course Registration

アサバスカ大学 2017 年次報告書によると、2016 年度（2016 年 4 月～2017 年 3 月）の入学者は計 3,626 名（学部 3,079 名、大学院 547 名）であり、2014 年度から 2015 年度及び 2015 年度から 2016 年度にかけて 2 年連続して約 5%増加している。

#### 学部入学

- 入学後、最初にコース登録を行う時に、出願料 115 加ドルの支払いが必要（全ての学士号プログラム及びコース受講において）。
- 入学手続きを完了すると、アルバータ州の学生番号が発行され、コース登録が可能となる。
- ほとんどのコースの期間は 6 か月で、期間内の単位取得が必要となる。ただし 6 単位コースのみ 12 か月となっている。
- 同じ期間に受講するコース数を最大 6 とし、初めての受講生には 1 コースの受講から始めるように指導している。

情報：<http://www.athabascau.ca/admissions/course-registration/>

#### 大学院入学

- プログラム生（全科履修）：出願料 150 加ドル、入学金 200 加ドル（返金不可）
- コース生（科目履修）：入学金 100 加ドル（返金不可）

情報：<http://www.athabascau.ca/admissions/applying-graduate/>

## 5. 授業料ほか費用 Tuition & Fees

授業料は、学部と大学院で異なり、また出願者の居住地等の条件により異なる。

### 学部の学士号 4 年プログラム (120 単位)

(典型的な学費の参考例：単位加ドル)

120 単位	
アルバータ州永住者	26,680 (約 240 万円)
カナダ国内アルバータ州外居住者	32,800 (約 295 万円)
カナダ国籍のシニアでアルバータ州内居住者	17,160 (約 154 万円)
カナダ国籍のシニアでカナダ国内アルバータ州外居住者	23,280 (約 210 万円)
非カナダ国籍のアルバータ州内居住者	45,720 (約 411 万円)
非カナダ国籍のカナダ国内アルバータ州外居住者	51,840 (約 467 万円)
カナダ国外に居住する学生	64,960 (約 585 万円)

情報：

<http://calendar.athabascau.ca/undergrad/current/fees-refunds/program-fees-120.php>

この他、単位認定試験の再登録料、実験料、コース期間延長料などがあり、上記の学費には含まれない。

情報：

<http://calendar.athabascau.ca/undergrad/current/fees-refunds/academic-related-fees.php>

### 学部コース (科目ごとの受講)

1 コース (科目) のみ受講する場合の授業料は以下の通り (3 単位コースの場合)。

アルバータ州内永住者・兵役者：667 加ドル (約 60,000 円)

シニア 429 加ドル (約 39,000 円)

カナダ国内アルバータ州外居住者：820 加ドル (約 74,000 円)

シニア 582 加ドル (約 52,000 円)

カナダ国外居住者 (国籍不問)：1,090 加ドル (約 98,000 円)

情報：<http://www.athabascau.ca/admissions/undergraduate-fees/>

大学院プログラム：学部及びプログラムによって異なる。典型的な学費として、修了までに 17,039 加ドル（約 153 万円）かかる。ただし上記の学部と同様に、この他各種料金が発生する場合がある。

- 1 コースの授業料： カナダ国内居住者 1,549 加ドル（約 14 万円）  
カナダ国外居住者 1,749 加ドル（約 16 万円）

\*1 加ドル=90 円で計算

情報：<http://www.athabasca.ca/admissions/graduate-fees/>

## 6. コースパッケージ Course Packages

学生の入学手続きが完了しコースを登録すると、コースやプログラムにより違いはあるが、以下のようなパッケージが学生に郵送される。近年、印刷物数は減少傾向にあり、パッケージは少量化してきている。

### プリントコース（グループ授業等）

- チェックリスト
- 印刷教材・その他ファイル
- 課題・問題解決マニュアル
- 学習ガイド

### オンラインコース

- ウェルカムレター
- チェックリスト
- 印刷教材

情報：<http://www.athabasca.ca/handbook/materials.php>

## 7. 単位 Credit

学位取得のための単位数及び在籍年数は学科により異なるが、4年プログラムで学士号取得の場合、120 単位取得が必要となるプログラムが多い。なお、ほとんどのコースは 3 単位科目となっている。

短期間で学士号を取得することを希望する学生のために、3 年集中プログラムを設立している学部もある。ただし、大学院進学を目指すことを視野に入れている学生には 4 年プログラムを勧めるとのこと。また、3 年集中を修了後、大学院入学を目指す場合は、4 年プログラムに編入学し 1 年間学習する必要がある。

また短期間に集中して単位を取得したい学生のために、**Challenge for Credit** 制度を設けているコースもある。この制度では、通常 6 か月で単位認定試験に至る期間を 3 か月に短縮し単位取得を可能にしたため、1 年間で 3 サイクルのコース受講が可能となる。ただしこの制度の利用には、担当教員との相談が必須で、また開始後の変更や期間延長はできない。

情報：<http://www.athabasca.ca/admissions/challenge-credit/>

## 8. 学生サービス Student Support

アサバスカ大学は、以下のような学生サポートをもとに学習環境の向上を図っている。

ライブラリー：	オンラインでデータや e-book へアクセス
チュータ：	全学生に配置され、電話、メール、ウェブで学習サポート
カウンセリング：	プログラム・科目の選択、学習方法のアドバイス
障がい学生サポート：	学習上の相談、教材フォーマット変更、受験環境の調整
数学サポート：	習熟度チェックテスト、復習ドリル等、励まし相談
ライティングサポート：	提出前のアカデミックな論文や課題を指導
IT ヘルプデスク：	PC の技術的な不明点へのサポート
学生組合：	各種福利厚生プログラムの提供
同窓会：	在学生との交流イベントや図書サービスの提供
奨学金・奨励金：	アサバスカ大学独自または国の制度の紹介

情報：<http://www.athabasca.ca/students/student-services/>

## 9. 障がい学生支援 ASD=Access to Students with Disabilities

エドモントン・サテライトキャンパスに担当窓口を置き、以下のサービスを提供している。

### コース教材のフォーマット対応

- レイアウト（行間、ページ色、フォント）
- 文字拡大
- 電子テキスト
- 点字及び触覚画像
- カーツワイル方式（テキスト読み上げ）
- MP3（デジタル音声）



- 音声及び映像教材の転写（音訳）

#### 試験（受験）の設備・環境調整

- 場所
- 環境
- 試験時間
- 試験問題のフォーマット
- 試験問題の構成
- 試験問題を解答するためのサポート
- 解答の方法
- 解答評価における特別な配慮

#### 試験に対するサポート

試験センターでの受験の場合、ASD Exam Services（障がい学生試験サービス）がメール及び電話で希望を受け、試験日時を決定する。また試験センター以外での受験の場合、受験希望を20日以上前に申請し、試験会場及び試験監督者と日時を決定する。カナダ国外の外国人学生に対しても、Eメールを使った英語でのサービスを提供する。

情報：<http://asd.athabasca.ca/services/index.php>

### **10. 授業・指導教員の評価 Course/Tutor Evaluation**

コースを受講して2か月が経過し、課題の提出記録がされた全受講生は、オンライン上で授業・指導教員の評価を行うことができるシステムとなっている。受講生による評価結果は集計され、半年ごとに指導教員と指導主事に送られ、今後の授業改善に活かされる。

情報：<http://tutorial.athabasca.ca/evaluations/index.php>

### **11. 筆記試験 Examinations**

#### 概要

アサバスカ大学の試験時期は学生の入学時には未定で、コース期間内（ほとんどが6か月）に受験申請することで日時が設定される仕組みとなっている。受験を希望する場合、試験リクエストフォームで申請する。受験に許可は不要だが、該当学生の習熟度を理解しているチュータ及び希望する試験センター等への相談が薦められている。

## 試験会場

- ① **Examination Centre (試験センター)** : アルバータ州内 3 キャンパス : アサバスカ、カルガリー、エドモントンのアサバスカ大学施設に設置され、それらから 100km 以内に居住する学生は、いずれかの試験センターでの受験を基本とする。
- ② **Approved Invigilation Centre (認定試験監督センター)** : 試験センターが居住地より 100km 以上離れている学生は、AU の試験サービス課が認めたアルバータ州内 89 か所の高等教育機関の認定試験監督センターで受験が可能。受験にかかる費用は、認定試験監督センターにより異なり、費用は全て学生が負担する。
- ③ アルバータ州外 : 認定試験監督センターでの受験も困難な場合、AU 試験監督ネットワーク (カナダ国内) で監督を紹介するが、かかる費用は全て学生が負担する。
- ④ カナダ国外 : 海外在住学生は、居住国にあるカナダ大使館、AU が認めた高等教育機関、または条件を満たす個人試験監督官のもとで実施可能。

## その他

- 試験問題は AU から、試験センターまたは試験監督官のもとへ直接郵送される。
- 試験時間に 15 分以上遅れた者は受験不可となり、10 営業日以内に再度の試験申請が可能だが、再試験は受験料が必要。

## オンライン試験

学生の居住地から試験センターへの距離が 100km 未満なら、AU が試験センター内に用意した受験用 PC で受験する。学生所有の PC を持ち込むことは不可。またオプションとして、学生の自宅・職場で学生所有 PC を利用した受験が可能であるが、インターネット環境の保証は学生の責任とする。

更に、学生の利便性を追求したオプションもあり、ウェブカメラ監視 (ヴァーチャル監督官) による試験を専門に実施・運営する Proctor U (プロクターU\*) を使用した受験は、試行期間を終了し本格実施となった。

情報 : <http://www.athabascau.ca/students/exams/>

## \*参考

### プロクターU とは

2008 年に米国で設立されたオンライン試験の監督業務を請負う私企業で、「Proctor」は「試験監督官」を意味する。世界中 129 か国の 1,000 近くの教育機関で、200 万件超のオンライン試験監督業務を請け負った実績がある。米国内に事務所が 4 か所とフィリピ

ンにサポートセンターがあり、600人以上の社員が勤務する。年中無休の24時間対応でサービスを提供している。

- 費用:受験者負担でカード決済。試験時間の長さで費用が変わる。原則予約制だが、追加料金を支払えば即受験（オンデマンド）も可能。

料金表（米ドル）

試験時間	柔軟スケジュール (72時間以上前)	近日中の受験 (72時間以内)	今すぐ受験
30分以内	\$8.75	\$13.75	\$17.50
31-60分	\$17.50	\$22.50	\$26.25
61-120分	\$25.00	\$30.00	\$33.75
121-180分	\$33.75	\$38.75	\$42.50
181分以上	\$42.50	\$47.50	\$51.25

- 受験場所:職場や自宅などのプライベートな空間で、ウェブカメラとマイクと接続したPCを使って行う。カフェや図書館のような公共的な場所での受験は不可。
- 本人認証方法:写真付きのIDカードをウェブカメラに映し、プロクターU監督官はその画像とカメラの前の人物を撮影する。その後、学生本人に関するいくつかの質問をする。
- 問題対応・不正対策:プロクターU側のPC画面には、受験に使用されているPC画面が表示され、万が一問題や不正等が起こった場合にも認識が可能。

情報: <http://registrar.athabasca.ca/exams/proctoru.php>

## 12. 学習評価 Grading & Evaluation

アサバスカ大学の学部コースでは、アルバータ州内の高等教育機関が採用している「alpha 4.0 Grading Scale」を使い、A+からFまでの文字を使って学生の学習を評価する。

科目により異なるが、オンライン上の小テストを複数回受験し、エッセイ等の課題を複数回提出した後、Final Exam（筆記試験またはオンライン試験）を受験する総合評価の場合が多い。各コースのウェブページにおいて、コース詳細とともに評価の方法(回数)・配点割合等を明記している。

情報:

<http://calendar.athabasca.ca/undergrad/current/exams-grades/grading-policy.php>

### 13. 卒業 Graduation

アサバスカ大学 2017 年次報告書によると、2016 年度の学部卒業生（学士号取得）は 925 名、大学院修了生（修士及び博士号取得）は 728 名となっていて、過去数年で増加傾向が継続している。特に学士号取得者の増加率は高く、2014 年度から 2015 年度は約 11%、2015 年度から 2016 年度は約 8%である。

アサバスカ大学は入学を毎月認めるため、卒業のタイミングも毎月となる。卒業を希望する学生は、卒業認定の申請書にて担当課に申し出るが、その前に、各自が卒業要件を満たす予定であることの確認及び他の必要書類の手配が必要となる。事務的な最終確認を経て、卒業証明書が発行される。

毎年 6 月には、アサバスカ本部で学位記授与式（convocation ceremony）が開催される。参加のためには、卒業許可書を指定された日（5 月初旬）までに入手し、担当課に提出する必要がある。

情報：<http://registrar.athabasca.ca/graduation/index.php>

#### \*参考

学位記授与式への参加希望者は、事前に申し込む必要がある。学位記授与式は大規模で、参列者数は学生と関係者を含めると数千人を超え、毎日学生を入れ替えて 3 日間の開催となる。その期間、AU 教職員はアサバスカ町周辺に宿泊するが、ホテルが数軒しかないため、ほとんどの参列者は日帰りで参加する。

# 第4部

## アサバスカ大学調査訪問

調査・報告者：放送大学

附属図書館長・心理と教育コース  
情報コース  
総務部総務課

岩永 雅也教授  
山田 恒夫教授  
神 研二郎課長補佐

調査時期：2017年10月12日（木）～13日（金）

## 第1日目：2017年10月12日（木）

訪問先：アサバスカ大学・エドモントン・サテライトキャンパス

アサバスカ町に所在する本部に次いで規模の大きなエドモントン・サテライトキャンパスは、人口 100 万人のアルバータ州都エドモントンの中心部にある。岩永附属図書館長、山田教授、神課長補佐の 3 名は、建物最上階の 12 階の会議室に案内され、Harland 副学長をはじめとするアサバスカ大学の教職員の暖かい歓迎を受けた。

エドモントン・サテライトキャンパスの主な施設・部署

### Offices 事務局

- Learner Support Services 学習者サポート
- Access for Students with Disabilities (ASD) 障がい学生サポート
- Brand & Marketing ブランド・マーケティング（知名度向上）
- Partnership & Student Recruitment 連携・学生募集
- AU Press AU プレス

### Faculties 学部

- Faculty of Graduate Studies 大学院
- Faculty of Health Disciplines 健康専門学部
- Faculty of Science & Technology 科学&技術学部

### Executives 幹部

- President's 2<sup>nd</sup> Office 学長室分室
- Office of the Provost and Vice President, Academic 副総長・学務担当副学長室
- Office of the University Secretariat 大学秘書室（分室）

## 1. Opening Remarks 開会挨拶

Rick Harland 副学長 Vice President

19 世紀にカナダ政府と先住民との間に締結された「条約 (Treaty) 6」にもとづき、アルバータの大地に対して、またそこに暮らしてきた人々への敬意を払う言葉から、Harland 副学長の挨拶が始まった。

続いて本学の訪問者 3 名がそれぞれ紹介され、日本からの友人訪問を大変喜ばしく思うこと、また、アルバータ州と日本が経済、文化、教育において長年の大切なパートナーであることが話された。特に高等教育では、日本から来た多くの留学生が州内の大学で学び、両国間の交流を深めていることが紹介された。

50 年の歴史の中で、アサバスカ大学が常に遠隔教育における世界の先駆者になろうと努力してきたこと、そしてその目標を達成しつつあることが述べられ、また、昨年着任した Fassina 学長は、大学設立当時のミッションを引き継ぎながら、新しいツールと新しい視点で再出発するという意気込みで、大学を先導していくであろうと力強く語った。

最後に、訪問の 2 日間で両大学が互いに理解を深め、今後の協力を結び付けていくように、大きな期待を持って歓迎の言葉を締めくくった。

\*Harland 副学長の挨拶全文 (Welcome Address) は、資料として掲載。



## 2. OIJ Presentation 放送大学の概要説明及び意見交換

岩永附属図書館長、山田教授

アサバスカ大学の教職員に対して、放送大学への理解を深めるために、まず岩永附属図書館長が、放送大学の設置目的（文教政策における位置づけ、放送局を有する特別な通信制大学・大学院であることなど）、統計（開講科目の統計や学生のデモグラフィなど）、学習センターの果たす役割、教材の配信方法と質保証などについて、その現状と将来計画について概要を説明した。続いて山田教授が、2015年度より本格運用の始まったオンライン授業科目について、科目数などの統計と使用 LMS（Learning Management System、学習管理システム）について説明した。

LMSは両大学とも Moodle で、アサバスカ大学がより長く使用し経験しているため、実際のコースをデモすることはなかったが、放送大学は放送授業科目のノウハウを活かしビデオ主体に構成していることを強調した。また両大学とも公開大学（Open University）として、さまざまな公開教育の動向・活動に参加してきた経緯があるが、本学の公開教育資源（Open Educational Resources=OER）運動との関わりについて紹介した。

世界初の MOOC（cMOOC）が、アサバスカ大学の教員も参加したチームで開始されていることに敬意を表明したのち、本学も 2014年 JMOOC の創設メンバーとして、プラットフォームとコース双方のプロバイダーとして「OIJ MOOC」の運用を開始したことにも言及した。

その後の質疑応答では、アサバスカ大学は放送を教育メディアとしては使用していないため、教育コンテンツの開発や配信、遠隔教育の質保証（インストラクショナルデザインなど）については、オンラインコースでの議論が中心となった。また、本学の学習センター機能について詳細な質問がなされたほか、データやエビデンスにもとづく教育および経営の必要性については活発なディスカッションがなされ、機関研究（Institutional Research=IR、主に経営的視点からの分析）や学習解析（Learning Analytics=LA、教員・学生・インストラクショナルデザイナーなどの視点からの分析）については、双方とも重要な課題として位置付けていることが改めて認識された。



### 3. Learner Support Services 学習者サポート

① Serita Smith 氏 Coordinator コーディネーター

Advising Services, Learner Support Services

学習者サポート 学業アドバイス

#### プレゼンテーション概要

学習者サポートとして、一般的な情報提供、各種登録、出願等のサービスを提供する。サテライトキャンパスでは、学生が質問をしたり、書類を提出したり、学費等を支払ったり、借りた図書・教材を返却したりできるような体制を整えている。カルガリー・サテライトキャンパスでは、12名の職員が年間 28,000 件に上る電話や E メールでの問い合わせに対応している。

#### Academic Advising Services 学業アドバイス

在学生の個別面談の予約を受け付けている。カルガリー・サテライトキャンパスでは、主に科学・技術学部と (Faculty of Science and Technology) と人文・社会科学学部 (Faculty of Humanities and Social Science) の学生を受け付けている。サテライトキャンパスを来訪できない学生に対しては、電話や E メールで対応している。

#### Examination Services 試験運営

サテライトキャンパスは、筆記及びオンラインで行う単位認定試験の受験会場となっている。エドモントンとカルガリーの各サテライトキャンパスでは、合わせて年間 19,800 名の受験生を受け入れる。カルガリー市及び近辺に居住する学生が多いため、カルガリーでの受験者数はエドモントンよりも多い。

単位認定試験を本部及びサテライトキャンパス以外で受験する学生に対して、試験監督官の手配・調整を行っている。試験サービス係では、試験に関する様々なリクエストや試験実施のための準備を行っている。

試験監督の料金は、個々の監督官及び試験運営に協力する教育機関等がそれぞれ決めている。アサバスカ大学との協力連携協定内容に試験実施を含む教育機関もあり、その場合学生は無料で受験することができる。学習者サポート課は学生に対して、近隣の試験会場をいくつか候補に挙げて、安い会場を探すことを提案している。その他、アサバスカ大学と協力関係のない機関での試験実施に関しては、試験監督官と学生が直接交渉し、大学は関与しない。

オンライン試験を受ける学生は増加している。最近では、エドモントン・サテライトキャンパスで毎月 300~400 名、カルガリー・サテライトキャンパスでは約 500 名の学生が受験するため、PC23 台をオンライン試験用に準備し(近いうちに 4 台追加の予定)、毎月少なくとも 10 日間、1 日あたり 2 セッションとして計 46 名の学生に対して単位認

定試験を実施している。

米国の私企業である試験監督専門業者プロクターU を使ったオンライン試験で起こる問題は、学生側のインターネット接続または機器そのものがほとんどの原因。プロクターU では、受験生に対して事前接続テストを行い本番の試験に備えるように指導しているが、事前接続テストなしで受験する学生も多く、本番でトラブルが起こることがある。また、料金の支払いが受験生の責任であり、料金が米ドル表示であることに注意を促している。

### その他

エドモントン及びカルガリーのサテライトキャンパスでは、科目によってグループ学習（Grouped Study courses）を受けることができる。これらは各地の需要によって開講が決まるが、多くの学生の利便性を考慮してサテライトキャンパスの開所時間外である夜間に開講される。

他に重要な役割としては、学費等を現金やデビットカードで支払いたい学生を窓口で対応する。全体で見ると、電話や E メールを使ったやり取りがほとんどで、サテライトキャンパスや本部を直接訪れる学生は全体の 7～10%程度にとどまる。



② Carrie Anton 氏 Assistive Technologist 支援技術者  
Learner Support Services, Access to Students with Disabilities (ASD)  
学習者サポート 障がい学生サポート (ASD)

プレゼンテーション概要

障がい学生のサポートは、基本的に個人個人に合わせた対応が求められ、エドモントン・サテライトキャンパスを中心に 6 名の職員が担当している。大学が行った調査では、障がい学生の 67%が無事にコースを修了するものの、16%が学習の途中でリタイアし、17%は単位認定試験に不合格となっている。

近年では、精神的な障がいがある学生の増加が課題となりつつある。具体的には、2014 年に 800 件だった相談は、2017 年には 1,600 件を超える勢いで増加している。ただし、これらは学生本人が障がい者として登録し特別対応を希望する数であり、実際には 6 割以上の精神障がいのある学生は、大学に対して何の申請もしていないと、大学側は予想している。

これらの障がいを申請しない多くの学生の周りで、もし教職員や他の学生が異変に気付いた時には、大学として個人面談等を行い本人の希望に沿って対応することとしている。日本の精神障がい者は、そのことを周りに隠す傾向があるが、カナダでも同様のことが起こっている。政府は、障がいがあることを隠さずにすむ社会を目指して、国民に呼びかけていて、アサバスカ大学もその方針に沿って学生に対応している。

視覚障がい者に対してのサポートとして、エドモントン・サテライトキャンパスでは、iPad を 10 台用意して貸し出しを行っている。プレゼンテーションをしてくれた Carrie Anton 氏は、実は弱視の障がい者であり、大きなフォントサイズのテキストが写るタブレット手にしていた。彼女は、自分の経験や知識を活かして、障がい学生のサポートを行っている。

情報 : UDL=Universal Design for Learning

[http://www.udlcenter.org/aboutudl/take\\_a\\_tour\\_udl](http://www.udlcenter.org/aboutudl/take_a_tour_udl)

## LEARNER SUPPORT SERVICES

*Encouraging and Support Learners' Success*

Open. Online. Everywhere.



## AU Locations

- Are primary points of contact and sources of information for anyone interested in the academic programs and services offered

**Athabasca**  
University Drive  
Athabasca, AB  
T9S 3A3

**Edmonton North**  
13220 St Albert Trail  
Edmonton, AB  
T5L 4W1

**Edmonton**  
Peace Hills Trust Tower  
1200 10011 – 109 St  
Edmonton, AB  
T5J 3S8

**Calgary**  
6<sup>th</sup> Floor, South Campus  
345 – 6 Ave SE  
Calgary, AB  
T2G 4V1



## Office of the Associate Vice President Academic Student Service Departments

- Centre for Learning Accreditation
- Learner Support Services
- Library Services
- Materials Management
- Office of the Registrar



## LSS Services and Support

- **Information**
- **Academic Advising**
- **Counselling Services**
- **Examination Services** (AU Calgary & AU Edmonton)
- **Access to Students with Disabilities**



## Academic Advising

- Clarify degree regulations and interpret transfer credit reports
- Help students choose the next course(s) for a program of study
- Provide information and guidance re: university regulations and procedures, applying for financial assistance, and other support services
- Act as liaisons between students and faculty members for program related requests

### Contact:

**Email:** [advising@athabascau.ca](mailto:advising@athabascau.ca)

**Phone:** 1.800.788.9041

**Web:** [http://advising.athabascau.ca/web\\_form.php](http://advising.athabascau.ca/web_form.php)

\*Also program specific advisors for undergraduate and graduate programs



## Counselling Services

- Education and Career Planning
  - ✓ help clarify your educational and career goals and the AU courses and programs to meet them
- Learning Support
- Balancing Student Life
- Referrals to Student LifeLine

**Contact:**

**Email:** [counselling@athabascau.ca](mailto:counselling@athabascau.ca)  
**Web:** <https://secure3.athabascau.ca/counseling/>  
**Phone:** (780) 675-6723



## Examination Services

- Requesting/scheduling:
  - Online exam request & scheduling system
  - Contact particular faculty
- Writing:
  - On-site at one of our AU locations
  - Examination invigilation network (across Canada)
  - Specific arrangements between student, exam invigilator, and Office of the Registrar



## Access to Students with Disabilities

- Individualized Accommodations
- Course Management & Learning Supports
- Exam Accommodations
- Funding Source Support
- Assistive Technology Service and Support Plan
- Alternate Format Course Material Production
- Information, Referral & Advocacy

**Contact:**

E-mail: [asd@athabascau.ca](mailto:asd@athabascau.ca)  
 Web: <http://asd.athabascau.ca/>  
 Phone: (780) 497-3424 or 1-800-788-9041 ext 3424  
 Fax: (780) 421-2546



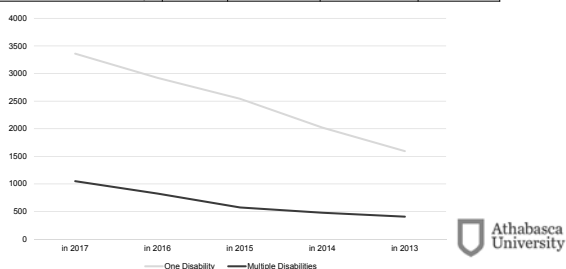
## We Do Know...

- 16% withdrew from the course
- 67% passed the course (includes In Progress here)
- 17% failed the course  
 (Moisey, 2011 & 2014)

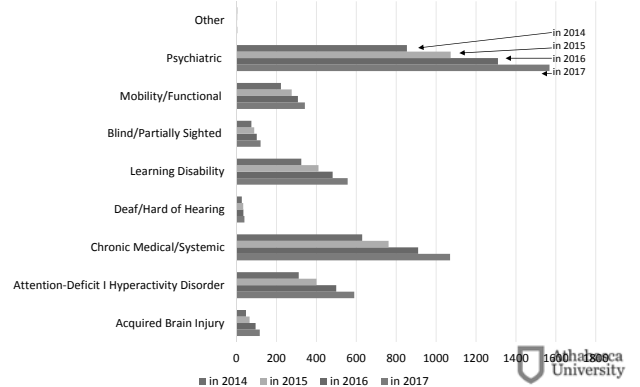


## Confirmed Disability

DISABILITY	IN 2017	IN 2016	IN 2015	IN 2014
One Disability	3360	2921	2543	2020
Multiple Disabilities	1050	825	574	478
Confirmed Permanent Disability	4410	3746	3117	2498



## Identified Student Population



## Other Services/Referrals

OTHER SERVICES/REFERRALS	IN 2017	OTHER SERVICES/REFERRALS	IN 2017
Note Taking	0	Advising Services	474
Academic/Learning Strategies	6	Work Experience/Field Placement Support	0
Alternate Format	139	Psychological Assessment Referrals	2
Interpreting	0	Other: Ergonomie aides via OSAP	3
CART reporting	0	Other: Counselling services via OSAP	3
Alternate Format Assessments	221	Other: Extended time to complete courses	788-3214
Assistive/Adaptive Technology Assessments	77	Other: Medical withdrawals with opportunity to reregister for course with waived course registration fee	102-175
AT Training/Services	9	Other: Reregistration with waived course registration fee for previously completed medical withdrawals	86-137
Tutoring	22		
Academic Aide/ Educational Assistant	1		

## Exam Accommodations

- Alternate invigilation site
- Alternate exam type
- Alternate Format of exam
  - Print, RTF, Audio, Braille
  - Use of computer
  - Scribe/Reader



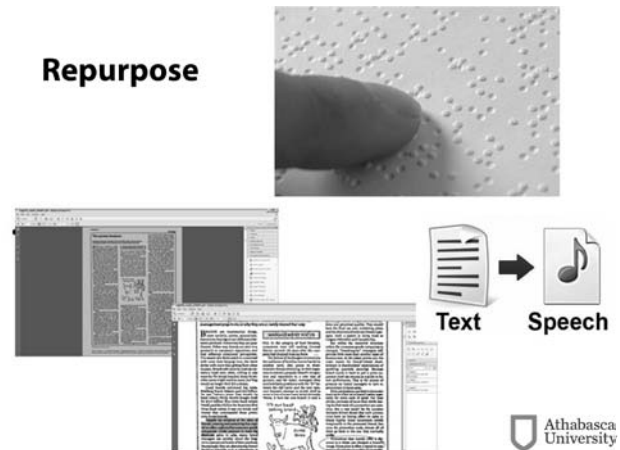
## Alternate Format Course Material (AF)

Repurposing of required course material

- Navigation features like bookmarks
- Searchable eText, print, audio, large print, Braille & tactile graphics
- Assessment process based on need
- Possible student aid funded service



## Repurpose

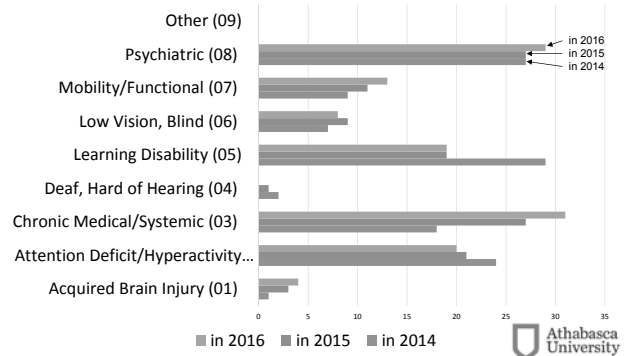


## Alternate Format

- 211 courses (192 UGrad, 19 Grad)
- 249 textbook requests
- 42 eTextbook initiative courses
- Print books \$500-\$1500 per month
- ~cost of Braille/Tactile \$20,000/year
- ~cost of external contractors for accessible PDF \$8,000/year



## Alternate Format by Disability



## Assistive Technology (AT)

- Systems, software or technology to assist someone experiencing a disability or having an impairment of a function or skill.
  - reading, writing, notes, organization, expressing ideas, time management
  - Speech recognition, text to speech, graphic organizers, calendars, to do lists, grammar aids, ergonomics, etc.
- info, assessment, set up, support, training & recommendations to funders



## AT Equipment Loan

iPad Loan Pool (10 iPads)

- Students learn more about their needs
- Portability is important
- iPad may replace other methods of studying/learning like computer
- Consistency & built in Accessibility



## AT - AUMAST

- App Loans
- Range of apps for a range of needs
- Android and Apple platform
- Mobile App Selection Tool

[www.aumast.ca](http://www.aumast.ca)



## AT Software Licenses

Read & Write Gold

- Take home licenses for Windows & Apple
- Includes web app & browser toolbar for reading, annotating, reference collection

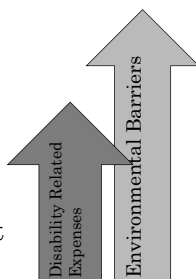


<https://youtu.be/cqLN-zAZIQY>



## Accommodation vs Accessibility

- Often greater expenses (medical, technology, low employment)
- Experience roadblocks that prevent comprehension of educational content due to poor course design and technical incompatibilities



## AT Does NOT Fix Poor Design

### UDL

Universal Design for Learning focuses on providing access to the general curriculum for all students regardless of abilities.

### AT

Assistive Technology focuses on providing access for one particular student or group with a disability.



## What Can We Do

- Step outside of our own experience
- Hold vendors responsible
- Focus on user experience
- Be flexible
- Do usability testing that includes people with disabilities





#### 4. Exploring Research Synergies 研究シナジーの探求

Dr. Donna Romyn

Associate Vice-President, Research 準副学長（研究担当）

##### プレゼンテーション概要

研究センターは、研究者、事務職員、学生に対して、アサバスカ大学での研究活動の情報提供及び事務的なサポートを行っている。また同学の研究者及び研究の関連委員会に対して、学内外の研究表彰や研究倫理のための情報提供も行う。研究に関する全ての事務的な問い合わせは、研究センターが窓口となり、大学内の様々な部署（財務、経理、人事など）と連携して回答する仕組みである。

アサバスカ大学は、産業との共同研究等による連携は先進イノベーションをサポートし、質の高い実践的な訓練に学生を参加させることができる絶好の機会だと考えている。研究費収入は 2016-2017 年に 357 万 5 千加ドルに上り、そのうち Tri-Agency\*の補助は約 26%である。人材育成としては、研究助手 54 名及び博士研究員 8 名が在籍し、2018 年に向けて増員する予定である。

また 2000 年にカナダ政府が設置した「Canada Research Chair」という政府直属の研究専門教授ポストがあり、大学として応募を呼びかけている。アサバスカ大学には研究機関が 2 機関あり、州政府の方針に沿った研究テーマとして資源管理、環境、経済、コミュニティのほか、教育や文化に関する研究も行われている。

（参考）

\*カナダ政府は、政府の研究助成機関である Social Sciences and Humanities Research Council (SSHRC)、Canadian Institutes of Health Research (CIHR)、Natural Sciences and Engineering Research Council of Canada (NSERC) の 3 機関 (Tri-Agency) から助成を受けた研究成果を公開する方針を 2015 年に発表した。



## Exploring Research Synergies

Presented to  
Open University of Japan  
by  
Donna M. Romyn, PhD, RN  
Associate Vice President  
Research  
12 October 2017

## Primary Intent

- To provide an overview of AU's
  - academic programs,
  - research services,
  - research enterprise, and
  - explore potential research synergies.

## Academic Programs

AU is one of four comprehensive  
academic and research  
institutes (CARI) in Alberta

## Faculties and Centres

- ▀ Business
- ▀ Health Disciplines
- ▀ Humanities and Social Science
- ▀ Science and Technology
  
- ▀ Centre for Distance Education
- ▀ Centre for World & Indigenous Research

## Research Services

## Roles of the Research Centre

- Facilitate grant application submission
- Coordinate ethics review
- Administer research grants
- Foster dissemination
- Connect researchers with industry partners

## Research enterprise

## Research revenue

- ▀ Research revenue from Tri-agency, industry and community sources \$3,575,000 in 2016-2017
- ▀ About 26% of that was from Tri-agency sources
- ▀ Recent decrease due to loss of research chairs
- ▀ Grants mentorship offered to increase grantsmanship capacity and success rates

## Training research personnel

- ▀ Number of student research assistants: 54
- ▀ Number of postdoctoral fellows: 8
- ▀ Both are expected to increase in 2017-2018
- ▀ Both present unique opportunities and unique challenges in a distributed environment

## Graduate Student Research Funding

- Tri-agency, Alberta Innovates, Mitacs, other
- Graduate Student Research Fund
- Data analysis/data management tools
- 3 Minute Thesis (3MT) Competition Awards
- Case competition funding
- Graduate Student Conference
- Visa costs for international research students
- Scholarships, bursaries, other

## Canada Research Chairs

Community, Identity and Digital Media (Dr. Mickey Vallee)

Health Promotion & Chronic Disease Management (Dr. Jeff Vallance)

Environmental Sustainability (Nomination submitted April 2017)

Digital Disruptions and Organizational Transformation (Recruitment in progress)

Vacant

## Other Research Chairs

CAIP Chair Computational Sustainability & Environmental Analytics (Dr. Junye Wang)

CAIP Chair Hydroecology & Environmental Health (Dr. Chris Glover)

UNESCO/COL/ICDE Chair in Open Educational Resources (Dr. Rory McGreal)

NSERC Industry Chair (Application in progress; anticipate submission Fall 2017)

## Research chair funding models

- Fully funded by Athabasca University (AU)
- Combination of provincial and AU funding
- Combination of federal and AU funding
- Combination of federal, industry and donor funding
- Other options include chairs fully funded by industry, donations and/or endowments

## Research Institutes

- Athabasca River Basin Research Institute (ARBRI)
- Technology Enhanced Knowledge Research Institute (TEKRI)

## Strategic Initiatives

## Re-visioning Strategic Research Plan

- To create a research strategy that aligns AU's research plans with its priorities in order to

... maintain a selective research presence

... build a national and international profile

## Related initiative

- To create a Northern Alberta Research Unit to

... address environmental, social, economic, cultural and political realities of the region, and

... collaborate with northern businesses and governments to build research capacity in northern Alberta.

## Identifying themes

### Themes identified by government

- Effective resource management
- Environmental stewardship
- Strong economy
- Supporting Albertans in their communities

### Additional themes (subject to change)

- Disruptive pedagogies
- Culture and society
- Others yet to be identified
- Themes will become an efficient way to describe our research foci

## Establishing goals and strategies

## Topics

- Academic/industry partnerships
- Balancing demands
- Celebrating success
- Dissemination/translation
- Enhancing our chair complement
- Grants mentorship
- Managing ethics
- Managing funding
- Measuring impact
- Rewarding excellence
- Training future researchers
- Upholding research integrity

## Potential research synergies

## Potential synergies

- Educational pedagogies
- Immersive educational technologies
- Learning analytics and personalized learning
- Business; business ethics
- Governance
- Open science
- Quality of life

## Your thoughts about potential synergies?

- Open education
- Others?

## Concluding thoughts? Potential next steps?

Thank you



## アサバスカ大学 「戦略的研究計画（2012－2017年最新版）」概要

### 戦略的研究計画の主目標

アサバスカ大学は、活気ある協力的な組織風土のもとで、学術的な研究とミッションクリティカル（任務の遂行に必要不可欠）な研究との調整を図り、学問の自由において研究の実施・普及を保証することを使命としている。また、複数の研究分野を横断する研究とそのアプローチは、枠組みや既定概念が取り払われることにより範囲が広がり、新しい考え方を生み出す支援に繋がっていく。

本学の「戦略的大学計画2011－2016年版」は、戦略的研究について3つの目標を掲げ、「戦略的研究計画（2012－2017年最新版）」に反映されている。

- 教職員や学生の研究および奨学金について、適切な支援を行なう。
- IT技術で強化されたオンライン・通信教育を含む主要研究分野において、本学の国際的な評価を高める。
- 学生、社会および経済のため、研究成果の移転・活用を促進・実行する。

### 重点的研究分野および研究トレーニング分野

研究の卓越性(エクセレンス)を促進するために、本学は次の事項を目標に掲げる。

1. 全大学規模で研究への取組みを推進・強化する。
  - 1.1 大学全体の研究能力を維持する。
  - 1.2 各学部内外における研究イニシアチブを促進する。
  - 1.3 キャンパス・アルバータ（州の高等教育システム）と共に、協力機関との共同研究活動を幅広く行う。
  - 1.4 学部および大学院の両方で、研究参加の機会を増やす。
  - 1.5 AUプレスを、オープンアクセス出版の主要媒体に育てる。
2. 4つの戦略的分野において研究能力を確立する：環境科学と環境学、教育技術とICT、企業変革マネジメント、健康専門学
  - 2.1 主要研究分野における研究ポストの確保に尽力する。
  - 2.2 大学付属研究機関を維持し、固有の研究プロジェクトを実現するため、政府や研究機関、協賛者および産業界から資金を調達する。
  - 2.3 医療や科学技術といった主要分野における研究および革新について、アルバータ州での研究に貢献すべく、産業界および他高等教育機関と連携する。
  - 2.4 学習解析研究における能力開発を進め、リーダーシップを育成する。
  - 2.5 産業界との研究協力および支援体制の革新を推進する。
  - 2.6 研究成果を広く普及させるコミュニケーションを推進する。

「戦略的大学計画2011－2016年版」および「戦略的研究計画（2012－2017年最新版）」は、現在更新中であり、2018年初旬の完成予定。以上の目標の基本は、本学の将来の戦略的方針設定に

においても一貫していく。

本学において、学術的研究はそれ自体、また学習を充実させる手段として高く評価されている。重点が置かれる学術的研究分野としては、ビジネス学、情報科学、環境学と持続可能性、グローバル化と文化に関する研究、先住民族教育、看護と医療、労働学とカナダ学、宇宙科学と天文学、ならびに職場教育と地域社会教育が挙げられる。

また、ミッションクリティカルな課題（すなわち教育学、認知学、オンライン・通信教育における技術的支援や学生支援、オープンアクセス、学習技術、デジタルメディア学）の探究も同様に、本学の教育・研究の中核にある。本学はまた、学術界における新分野および創発的分野（アーキテクチャ、データ分析など）や、社会的および世界的関心事（アクセシビリティなど）に関する研究の重要性を認識している。

前述の学術的研究とミッションクリティカルな研究分野では、学部生、大学院生、研究員に対して研究トレーニング環境が提供されている。研究テーマを持つ修士および博士課程の数は年々増加してきており、今後もいくつか予定されている（例えば、情報学および健康専門学の博士課程、環境科学、環境学および応用数学の修士課程など）。本学で既に課程に組み込まれている研究トレーニングの機会は、高度な技能を備えた人材の養成を後押しするものである。本学の学生および研修生の多くもまた、専門分野におけるプロとしての実践的な経験を有しており、カナダにおける才能蓄積と研究基盤、ひいてはカナダの生産性および世界的競争力に大きく貢献している。

#### カナダ・リサーチ・チェア (Canada Research Chairs) \*の割当て

重点化した研究分野の優先順位付けを実施したことによりアサバスカ大学は、最前線で活躍する国際的に著名な研究者を戦略的に招致し、研究を維持することが可能となった。以下は、本学におけるカナダ・リサーチ・チェアの割当てである。

\*カナダ政府が推進するリサーチ・チェア制度は、大学で優れた研究活動を行う研究者にまとまった助成金を与えるものである。

研究ターゲット分野	タイプ	状態
健康推進および慢性疾患マネジメント	2	2013年6月に決定済
地域社会、アイデンティティおよびデジタルメディア	2	2017年4月に決定済
環境持続可能性	2	2017年春に推薦書を提出
デジタル・ディスラプション（さまざまなテクノロジーによる破壊的なイノベーション）および組織転換	2	募集中
2015年/2016年の新規割当て：ターゲット分野は未決定	2	募集開始日を今後決定

(タイプ2：\$10万CAD×5年間助成)

研究ポストは、研究の卓越性（エクセレンス）の探求と能力の高い人材育成の推進において国



際的リーダーシップの獲得につながり、アサバスカ大学の研究能力増強の鍵である。厳しい競争に加え国際的な募集でもあることから、適任者の獲得は極めて困難である。学習解析及び個別学習分野が注目されていることを受け、「環境持続可能性」と「デジタル・ディスラプションおよび組織転換」の2分野のカナダ・リサーチ・チェアが募集中である。合わせてNSERC（自然科学・工学研究機構）／CNRL（Canadian National Resources Limited）との共同研究ポストであるインダストリアル・チェアも最近欠員が生じたため、募集が行われている。

これらのポスト募集が成功すれば、本学はカナダ・リサーチ・チェアの数を戦略的に増やし、研究能力を向上させ、産業界および学術界内外での体系的な相乗効果を期待できる。専門分野で国際的に著名な国内外の候補者から応募が寄せられているところである。カナダ・リサーチ・チェアから得られる研究成果は、本学の他ポスト保持者および研究者の成果を補完し、研究プログラムに参加する学生・研修生に、優れた研究トレーニング環境を提供することになる。

#### 公平性、多様性およびインクルージョン

「公平性、多様性およびインクルージョンに関するアクションプラン」の策定が進行中であり、研究の卓越性（エクセレンス）に加え、4つのグループ（女性、障がい者、先住民および非白人）を継続的にカナダ・リサーチ・チェアの定員に含めることで、当大学の方針を明確にする。当プランにより、チェアの選定、推薦、任命は公正に行なわれる。また、研究の卓越性の探求および研究トレーニングにおいても、インクルーシブで協力的な場が継続的に育成される。

#### 研究および研究トレーニングのための支援

本学の研究者の外部研究助成金・資金の獲得率は、過去5年間で着実に上昇している。外部からの資金調達に加え、大学内の研究助成金も用意され、パイロットプロジェクトや学部の研究プロジェクトにおける研究補助員の配置などを支援している。さらに、国内外の学会における研究普及や、オープンアクセスジャーナルの出版費用を支援するための追加資金も用意されている。また、助成金申請以外にも、研究協力を携わる機会を拓くための初期投資の資金も用意されている。本学は、研究者のリソース要件を継続して評価し、そして、内部および外部資金による持続可能な研究事業を断続的・組織的に築き上げる必要性を留意している。

アサバスカ大学研究センターは、助成金申請手続きおよび獲得資金の財務管理について、支援を行う。これらの中には、財務監査と会計、人材確保に対する支援、研究に関係した人材の雇用と給与支払い、ならびに研究の外部資金助成機関に対する報告書の提出なども含まれる。また研究センターは、学部および学生のための内部の研究倫理承認プロセスを監督し、第三者の倫理承認を必要とする研究者には助言と支援を行う。

#### 機関間および部門間の協力

本学は、州、国および国際的なレベルで、機関間や部門間の協力を推進し支援している。本学の研究者は今日まで、民間セクター、地域・国レベルの学術機関、産業界と共に多数のイニシアチブに携わってきた。これらの取組みには、例えばアジア、オーストラリア、英連邦、欧州連合および米国等から研究者が参加しているものもある。本学はまた、社会科学および人文科学において高性能コンピューティング／コンピュータ・グリッドおよびデジタルテクノロジーを創造する、複数機関の共同イニシアチブへも参加している。これにより当該分野の研究者は、複数の機関や分野にまたがって資金提供を受けた研究に参加する機会を得ている。

#### 成果評価

本学の「戦略的研究計画（2012－2017年最新版）」の成果は、以下の各項目が数において増加

していることから実証できる。

- 研究ポスト（基金による新規研究ポストの創設も含む）および中核的研究拠点
- 共同研究ならびに州、国および国際レベルの協定に基づく知識移転の取組み
- 研究助成金および資金（国の助成金の授与を含む）
- 研究資金助成機関の支援による研究（州の助成金の一部として）
- 自身の学力向上の機会として研究に参加した学生
- 学部および学生による、査読済みの出版物・発表

これらの成果は、本学の「戦略的大学計画（2011－2016年版）」および「包括的機関計画（2017－2020年版）」を始めとする他の計画書で概説されているものと同じである。

#### 計画承認プロセス

目下更新中のアサバスカ大学「戦略的研究計画（2012－2017年最新版）」は、歴代の計画や「戦略的大学計画（2011－2016年版）」および「包括的機関計画（2017－2020年版）」を始めとする他の計画書を繰り返し精査して作成される。これらの計画書は、大学内外の主要協力機関と協議を行ったうえで策定され、大学のガバナンス機構の監査を受けた後、最終的に大学評議委員会（General Faculties Council）に提出される。最終承認は、アサバスカ大学理事会（Athabasca University Board of Governors）が行う。「戦略的大学計画」および「戦略的研究計画」の更新についても、同様のプロセスに従う。

本学は、アルバータ州内の4つの総合学術研究機関の1つであり、これらの研究機関とは直接的に提携はしていないが、共同事業や共同研究の取組み、産学協同の研究開発イニシアチブなどで、連携を行っている。結果として、内外の他高等教育機関、研究の助成機関、および地域社会や産業界の主要出資者らから「戦略的大学計画」への活発なフィードバックが行なわれている。計画書は理事会にて最終的に承認を受けた後、大学のウェブサイトに掲示され一般公開される。

## 5. AU Course Development オンラインコース開発について

Hongxin Yan 氏 Senior System Analyst シニアシステムアナリスト

Faculty of Science & Technology 科学・技術学部

### プレゼンテーション概要

アサバスカ大学のオンライン授業は、LMS を使用し Moodle をプラットフォームにして、学部の提供する個人学習（Individualized Study）及び大学院コースを中心に制作している。

ICT を活用した在学生の学習環境として、ウェブ・デジタル読書室、OER 等を提供し、また Adobe Connect を使用したウェブ会議、ソーシャルメディアやモバイル機器を活用できる環境を整えている。

オンライン授業の制作は、10 分野の専門家が参加してコース開発チームを結成し進めることが多いが、必ずしも 10 人で構成されるわけではない。主にコース担当教員、ウェブデザイナー、領域専門家がオンライン授業のデザインについて話し合い、その中で、画像・動画の効果的な使用、費用や教育上必要な要素を総合的に考慮してデザインが進められる。

科学・技術学部内のコースを対象に追跡システム（FST Course Tracking System）を構築し、コース開発の合理化を図っている。このシステムにより教職員の業務量の減少及び、プロセス全体の透明化、スピード化、単純化が図られ信頼性が向上したとの結果が得られた。



# AU COURSE DEVELOPMENT

**Hongxin Yan**

**Learning Designer  
Faculty of Science & Technology**

Focused on the Future of Learning



## AU Course Delivery Model

- Online
  - Individualized Study (self-paced, monthly enrollment)  
most undergraduate courses
  - Group Study (paced, term enrollment)  
most graduate courses



## AU Learning Environments

- LMS: Moodle
- Other Supplementary Learning Platforms:
  - Vital Source – eText from publishers;
  - Digital Reading Room (AU Library)
  - IBM Lotus Notes (used in FB)
  - OER sites/eBooks
  - Web Conference: Adobe Connect;
  - Teleconference
  - Social Media (AU Landing, Mahara, Twitter, Facebook, YouTube);
  - Mobile;

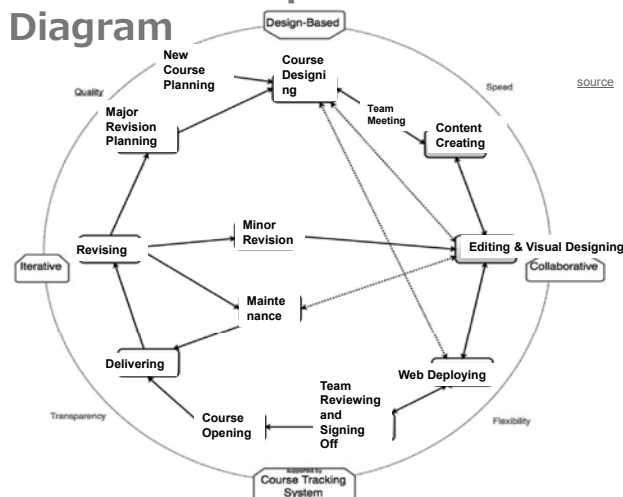


## Course Development Team In Faculty of Science & Technology

- In FST, the team roles:
  - Administrator
  - Course Coordinator
  - Subject Matter Expert
  - Learning Designer
  - Editor
  - Visual Designer
  - Multimedia and Web Specialist
  - Copyright Officer
  - Librarian
  - Tech Support



## Course Development Process Diagram



## Online Course Design

- Learning environment design:
  - blocks, layout, navigation, components
- Instructional design
  - Learning outcomes
  - Learning assessment
  - Learning activities
    - ✓ Pedagogy
    - ✓ Online technologies
    - ✓ LMS function
    - ✓ Multimedia and Interactivity
  - Learning materials and resources



## AU - FST Course Tracking System

- A tool to streamline course development
  - communicating
  - collaborating
  - document sharing
  - progress tracking



## AU - FST Course Tracking System

- Results:
  - reduced workload for human admin
  - transparency
  - speed
  - simplicity
  - reliability
- Demo  
<https://fst-request.athabascau.ca/>  
(example: request 536)



**Thank you !**

Questions and discussion



## 6. Mobile Learning and Augmented Reality モバイル学習と拡張現実

Mohamed Ally 教授 Professor

Centre for Distance Education 遠隔教育センター

### プレゼンテーション概要

モバイル学習 (Mobile Learning) と呼ばれるモバイル ICT 機器を使った学習について、各国の事例を挙げながら説明した。カタール政府がビジネス界及び教育機関を巻き込み掲げた「カタール・ナショナル・ビジョン 2030」は、モバイル学習をもとに職場での英語能力を高めることを目標としている。アサバスカ大学が、カタール国営企業と協力してこのトレーニング事業の開発に取り組んでいることを紹介した。

またカナダでは、モバイル学習についての調査結果をもとに、その開発や研究に対して国として関わりを深めることを推奨した。パキスタンでの研究事業では、教育及び学習の質を向上させるためのモバイル学習の効率性を調査するインタビューを行ったことを紹介した。

その後、拡張現実 (AR=Augmented Reality) プロジェクトの説明に移り、トレーニング参加者から、拡張現実はいこれまでのトレーニングと比較して、時間、費用において優れている、また大きな可能性を秘めているという意見を紹介。次いで、遠隔地から現場にいる作業員に指示を出すことを可能とするリモート拡張現実 (RAR=Remote AR) を教育現場で活用することを紹介した。

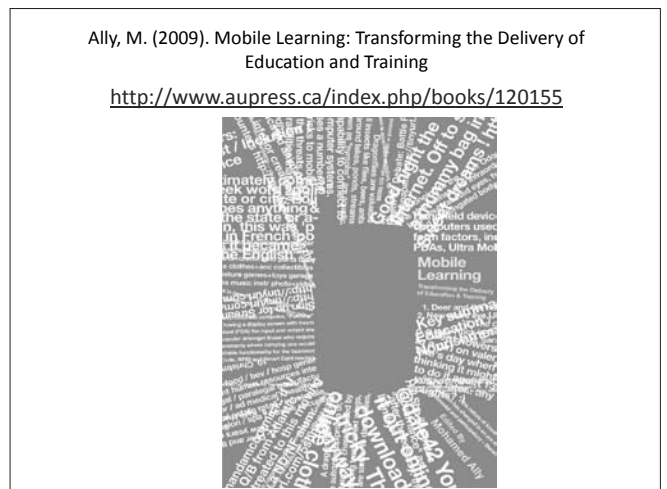
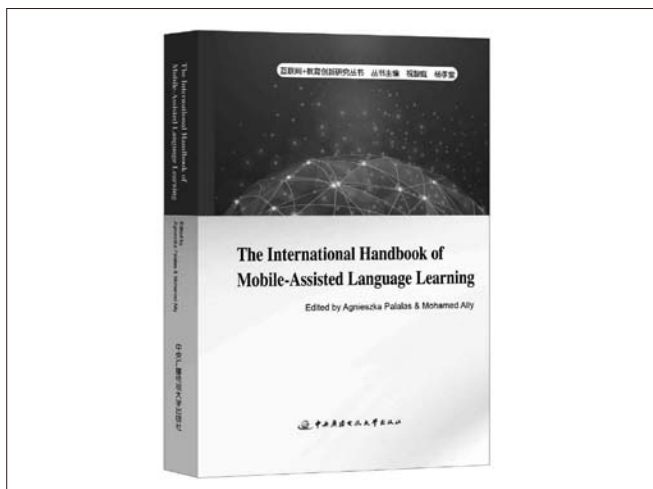
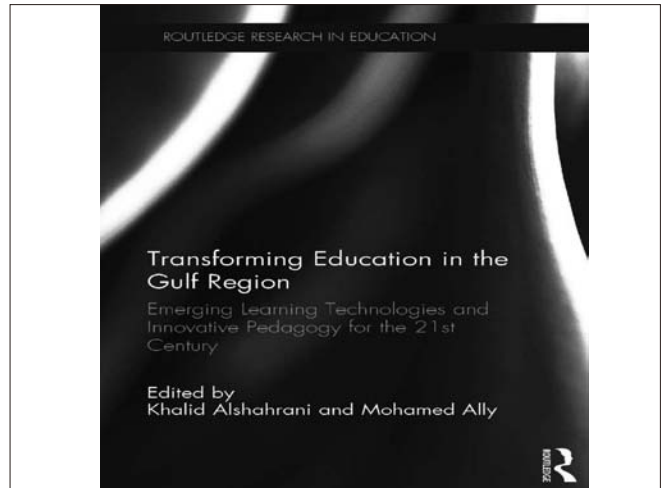
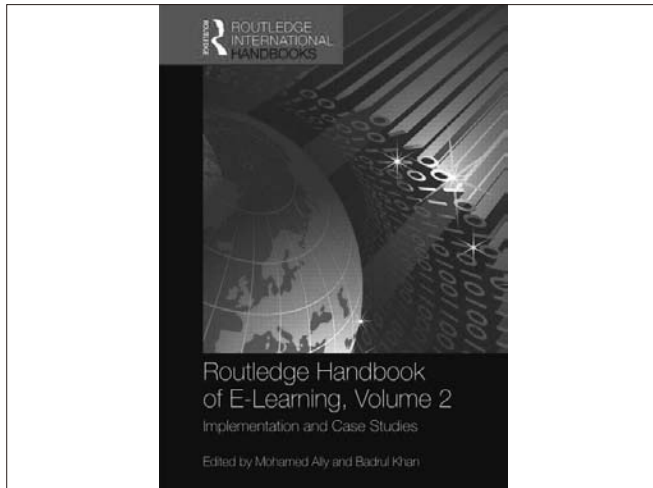
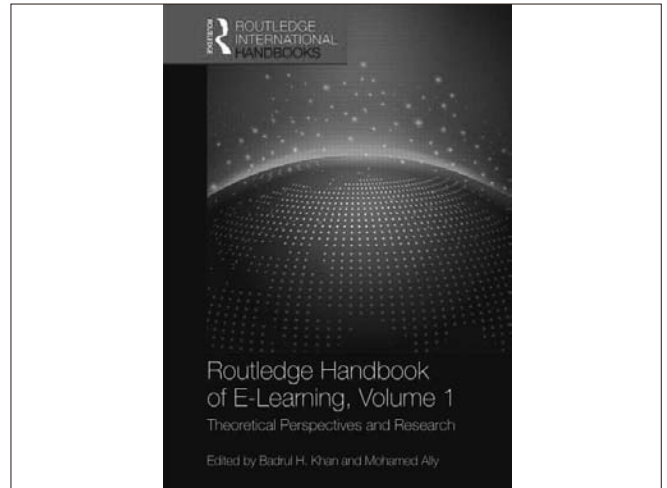
最後に、私たちの住むコミュニティの資源を全般的に活用するスマート・シティ及び 21 世紀のこれから、そして教育における AI 使用について語った。



## Mobile Learning and Augmented Reality

Dr. Mohamed Ally  
Professor, Centre for Distance Education  
Researcher, Technology Enhanced Knowledge Research Institute  
Director, International Association for Blended Learning  
Founding Director, International Association for Mobile Learning  
Athabasca University  
Canada

Presentation  
Open University of Japan  
October 2017





A Virtual Library in Everyone's Pocket  
Facet Publishing, UK



ISBN 978-1-4419-9999-9  
ISBN 978-1-4419-9999-9  
ISBN 978-1-4419-9999-9

Shengquan Yu · Mohamed Ally  
Avgoustos Tsinakos  
Editors

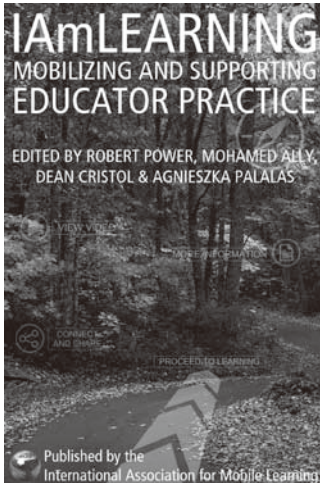
Mobile and Ubiquitous  
Learning

An International Handbook

Springer

New Book Title

- Globalized Online Learning using MOOCs and Innovative Pedagogies



Education for All

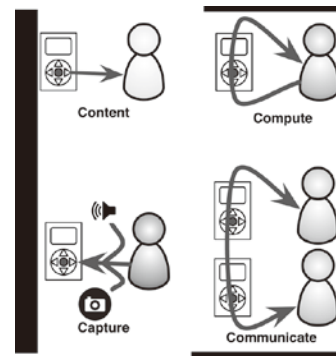
- UN Sustainable Development 4: Goal “inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning for all”

Why mobile learning?

## Definition of Mobile Learning

- Learning using information and communication technologies in mobile contexts - ISO/IEC 29140-2 (TR)
- Other definitions
  - Mobile learning is the delivery of electronic learning materials on mobile computing devices to allow access from anywhere and at anytime.
  - m-Learning can be defined as learning using mobile and wireless computing technologies in a way to promote learners' mobility and nomadicity nature.

## Quinn (2011) – Four C's of mobiles



## Mobile Learning in Qatar

Qatar National Vision 2030

- Qatar residents are encouraged to implement information and communication technology (ICT) initiatives in government, business, and education in pursuit of a knowledge-based society that embraces innovation, entrepreneurship, and excellence in education.

*Improving Communication Skills in the Workplace  
Using Mobile Learning*

## Project Details

- Project funded by the Qatar Foundation – Qatar National Research Fund
- Collaborative project with Athabasca University, Qatar University, Qatar Petroleum, Qatar Mobility Innovations Centre
- Develop training lessons for delivery on mobile technology to improve English Skills in the workplace

## State of Mobile Learning in Canada and Future Directions

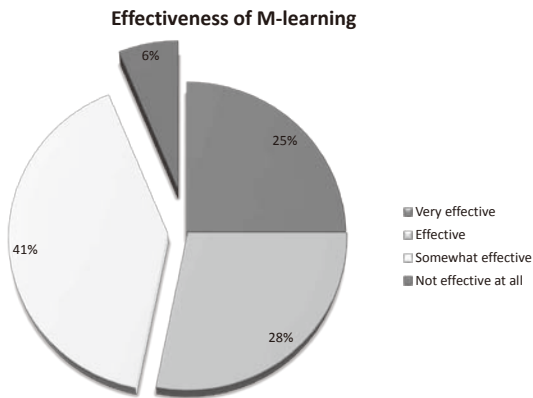


Mohamed Ally, Ph.D.  
Professor  
Athabasca University  
mohameda@athabascau.ca

Agnieszka Palalas  
Athabasca University  
apalalas@athabascau.ca



# CONCLUSION



## Recommendations for Canada

- A *national agency should be established* or an existing agency should be used to coordinate mobile learning activities across Canada so that mobile learning developers, researchers, and mobile device manufacturers share best practices and research results.
- *Develop standards for mobile learning* so that learning materials can be developed and shared between organizations.
- Include mobile learning as a stream in the *Tri-council research grant programs*.

## Recommendations for Organizations

- Integrate mobile learning in strategic, business, and educational *plans*.
- *Create partnerships* between industries and educational institutions to collaborate on the mobile learning research and the development of learning materials.
- Develop a *research agenda for mobile learning*.

## Recent Study in Pakistan

## Purpose of Project

- To conduct research on the effectiveness of mobile learning to improve access to education and enhance the quality of teaching and learning for the purpose of recommending a sustainable and scalable model to improve access and quality of education in Pakistan

## Comments from Interviews

- A student shared that this is a very easy approach to teach us. Teacher easily deliver lecture and we can also learn easily.
- A student shared that through tablet we can cover chapter double than book.
- We understand well, we concentrate well so there was no need to review one chapter double time. This increased speed to cover chapter in less time as compare to book reading.
- Students shared that they can ZOOM words, as a result of this it was easy for them to recognize words and understand.
- Children shared that in class 3 -4 children have eye site problem and this technology is very helpful for them.

## Augmented Reality Project

- Augmented reality (AR) is the projection of digital sensory information (such as images and sounds) onto real world objects.

## Feedback from Trainees

- When compared to previous types of training, respondents indicate a preference for the new AR learning experience, describing it as a cutting-edge, time- and cost-effective form of learning that can increase workplace safety, product knowledge, employee engagement, customer satisfaction, and company market share.
- Users reported that the use of augmented reality have enormous potential for training.
- They requested the opportunity to practice the new training at work, broadened availability of AR system, and development of more AR training modules.

## Remote AR

- Remote AR (RAR) allows learners to connect with an expert/professor/teacher from anywhere using any mobile device, when and where they need support using computer-generated sensory experience on physical objects.

## Education for Smart Societies/Cities

- A **smart city** is defined as the ability to integrate multiple technological solutions in a secure fashion to manage the city's assets – the city's assets include, but not limited to, local departments information systems, schools, libraries, transportation systems, hospitals, power plants, law enforcement, and other community services.
- How do we education students to contribute to the development of smart societies/cities?

## Internet of Things (IoT) and Education

- The term Internet of Things generally refers to scenarios where network connectivity and computing capability extends to objects, sensors and everyday items, allowing these devices to generate, exchange and consume data with minimal human intervention.
- How do we educate students with minimal human intervention but at the same time providing effective and efficient learning for productive citizens in the 21<sup>st</sup> century?
- Increasing use of AI in education.

**How to design learning materials for delivery on unknown technologies?**

**Questions and Comments**

## 7. Teaching Presence: Facilitation in Online and Blended Learning

### 教育の現場：オンライン学習及びブレンド学習の促進

Marti Cleveland-Innes 教授 Professor

Chair, Centre for Distance Education 遠隔教育センター長

#### プレゼンテーション概要

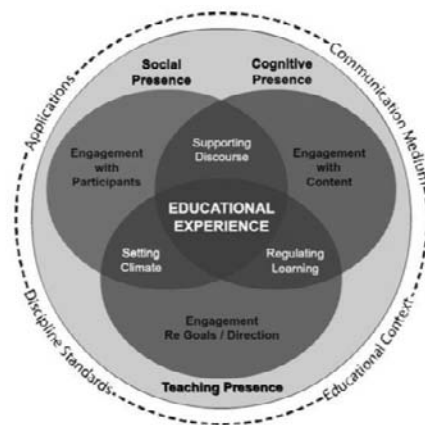
日常生活の多くの局面に変化をもたらしている今日の技術革新は、大学に対しても明確に「再生」を求めている。従来の教授法を変革していくことへの圧力は、かつてないほどに大きい。高等教育は、①情報の爆発的増大、②人々の活動のグローバル化、③大学間競争、④学生の人口動態、⑤教育の質保証、⑥技術革新、⑦雇用環境の変化、⑧財政支援の変化、⑨アカウンタビリティへの要請、⑩コスト上昇、といった改革促進要因に取り囲まれている状況である。

将来は、まだ職に就く前の20歳前後の若者とは異なる成人学習者、高校を卒業してから仕事や家事に従事した後に大学に帰ってくる大量の成人学習者が、学生の象徴的な存在となるであろう。そのため、先進技術を導入した教育の推進やネットへのアクセスの利便性拡大、学習の社会化、そしてメディアリテラシー教育等の対応により、学習障壁を取り除くための措置を講じる必要がある。

これからの多様性のある社会では、柔軟な教授-学習プロセス、多様な学習ニーズへの柔軟な対応、柔軟な評価とカリキュラムデザイン、柔軟な入学基準、そして柔軟な教育デリバリーシステム等が必要とされる。

「質問コミュニティ」はその一つの試みである。そこには、単に教員との関わりだけでなく、それに加えて学生同士、教材の三者の組み合わせが用意されている。特に成人の場合、「質問コミュニティ」を用いたアクティブ・ラーニングや協働学習の効果が有意に高いことが示されている。(右図:「質問コミュニティ」の枠組み)

こうした「質問コミュニティ」の枠組みを用いたブレンド教授法は、中国においてもスウェーデン・ストックホルムにおいても、またポーランドにおいても試行され、その結果、成人学習について高い評価を得ている。「質問コミュニティ」の実践において教員には、自らの専門知識を超え、基本的な教育技術力と教育ツールを快適に用いる能力、そして学生中心の学習に適合した教授スタイルの二つのスキルが必要とされることが述べられた。



# Teaching Presence: Facilitation in online and blended learning



**M. Cleveland-Innes, PhD**  
Professor and Chair,  
Centre for Distance Education  
Visiting Researcher  
KTH Royal Institute of Technology



## Why change what we've always done?

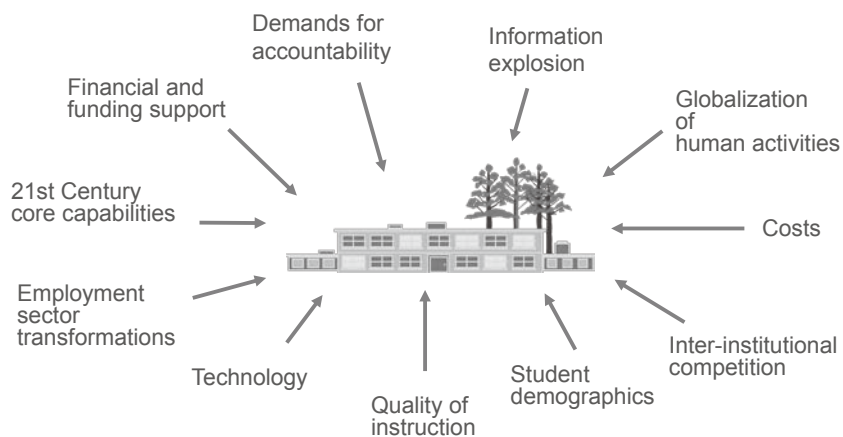


Today's technological revolution, with its order of magnitude advances that have left little of common life unchanged, presents an open challenge to the University to once again 'reinvent' itself. Indeed, it could be argued that **the pressure for change** placed on the University today is **greater than any it has faced in any previous historical epoch** (Amirault & Visser, 2009, p. 64).

11/30/2017

2

## Drivers for higher education change



11/30/2017

MSU 2017

## Future students: diversity as the norm



- Through historical and comparison methodology, Chong, Loh & Babu (2015) describe **millennial learners as adult learners who have been out of school for several years and returning to pursue higher education** for career advancement and/or self-betterment, while maintaining jobs and family obligations at the same time. Of course **this differs from our traditional late-teen learner population** embarking upon higher education for the first time and many of whom have not yet entered the work force.

Chong, S., Loh, W. M., & Babu, M. (2015). The Millennial Learner: a new generation of adult learners in higher education. *Adv. Sch. Teach. Learn*, 2(2)

- Van Dusan (2014) discusses the **factors of accessibility, cost and quality in technology-based education**. ... we must continue to take measures to remove barriers ... to advance globalization of education. Specifically, he recommends: (1) state and federal policy reform; (2) **reward systems for teaching with technology**; (3) universal Intranet access; (4) universal access to the National Information Infrastructure; (5) promotion of the social aspect of learning; (6) requiring that all students have the skills of mediacy and numeracy; and (7) preserving quality and values that distinguish higher education from corporate training.

Van Dusen, G. C. (2014). Digital Dilemma: Issues of Access, Cost, and Quality in Media-Enhanced and Distance Education. *ASHE-ERIC Higher Education Report*, 27(5).

## Sloan-C Five Pillars of Quality



## Flexible Learning in a Diverse Society

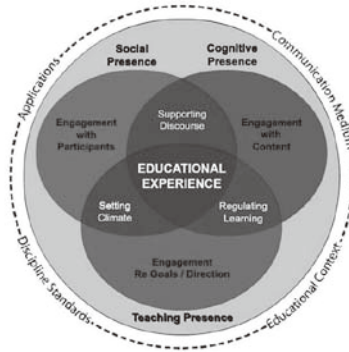
- flexible learning and teaching
- flexible design for complex needs of diverse students
- flexible ways of studying around complex, flexible life
  - flexible curriculum design with flexible assessment
  - flexible admissions criteria
  - flexible delivery



# Community of Inquiry Framework

## Social Presence

the ability of participants to identify with the community (e.g., course of study), communicate purposefully in a trusting environment, and develop inter-personal relationships by way of projecting their individual personalities



## Cognitive Presence

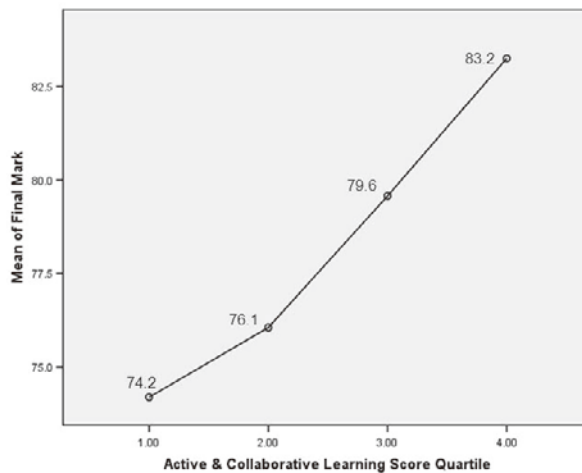
The extent to which learners are able to construct and confirm meaning through sustained reflection and discourse in a critical community of inquiry.

## Teaching Presence

The design, facilitation, and direction of cognitive and social processes for the purpose of realizing personally meaningful and educationally worthwhile learning outcomes.

Garrison, D.R., Anderson, T., & Archer, W. (2000). Critical inquiry in a text-based environment: Computer conferencing in higher education. *The Internet and Higher Education*, 2(2-3), 87-105.

## Final Marks vs Active & Collaborative Learning Indicators



ANOVA  
 $F=5.27$  ( $p=0.002$ )  
 Effect size:  $d=0.46$

## Categories of Teaching Presence

Categories	<i>Design &amp; Organization:</i> Setting curriculum & methods	<i>Facilitating Discourse:</i> Shaping constructive exchange	<i>Direct Instruction:</i> Focusing and resolving issues
Indicators	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Setting the curriculum</li> <li>•Designing methods</li> <li>•Establishing time parameters</li> <li>•Utilizing medium effectively</li> <li>•Establishing netiquette</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Setting climate for learning</li> <li>•Drawing in participants, prompting discussion</li> <li>•Encouraging, acknowledging, or reinforcing student contributions</li> <li>•Identifying areas of agreement/disagreement</li> <li>•Seeking to reach consensus/understanding</li> <li>•Assess the efficacy of the process</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Present content/questions</li> <li>•Focus the discussion on certain issues</li> <li>•Confirm understanding through assessment and explanatory feedback</li> <li>•Diagnose misconceptions</li> <li>•Inject knowledge from diverse sources e.g., textbook, articles, internet, personal experiences (includes pointers to resources)</li> </ul>

## Faculty response - China

Results indicate that the blended professional development course using a community of inquiry demonstrated that the experience allowed participants to reposition, clarify, and elaborate their online teacher identity.



11/30/2017

CSSHE 2017

10

## Faculty response - Stockholm

KTH faculty show a keen interest in using technology for learning but demonstrate somewhat less interest in the pedagogical frameworks underlying such use. Interest in creating blended teaching methods increased with discipline-specific examples (such as Martinez-Caro & Campuzano-Bolarin, 2011)<sup>24</sup> and opportunities to work collaboratively. Most valuable were intense discussions of pedagogy in reference to student needs. This extended to choices about what strategies to use in the classroom, and how the online could replace, enhance, or interfere with classroom environments.



11/30/2017

CSSHE 2017

11


## Faculty Response - Portland



11/30/2017

MSU 2017

12



Introduction to  
**Technology-Enabled Learning**

A MOOC from the Commonwealth of Learning and Athabasca University  
[www.telmooc.org](http://www.telmooc.org)

**TEL MOOC**



Week 1: Topic 1  
**The Community of Inquiry**

Reflecting on new teaching activities for new learning

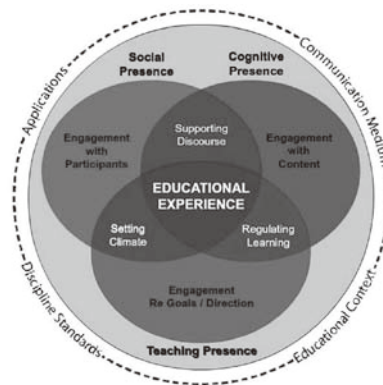


# Beyond subject-matter expertise

## Why is this important?

“Teachers need two skills beyond their subject knowledge: 1. basic technology skills and comfort with tech tools and 2. pedagogical practice aligned with meaningful, student centered learning” (Brush and Saye; Kopcha).

## The Community of Inquiry



## The Community of Inquiry

Elements	Categories	Indicator Examples
SOCIAL PRESENCE	Open Communication Group Cohesion Personal/Affective	Risk free expression Collaboration/group identity Self-projection/Express emotions
COGNITIVE PRESENCE	Triggering event Exploration Integration Resolution	Sense of puzzlement with interest Information exchange Connecting ideas Focusing and resolving issues
TEACHING PRESENCE	Design and Organization Facilitating discourse Direct instruction	Setting content and methods Shaping constructive exchange Focused information, resolution

## Learning Activities for Topic 1

**Respond** *What do you see as beneficial about the Col as a way to understand technology learning for your students? What possible challenges do you see?*

**Review** *Collaborative Learning Technologies.*

**Assess** *Identify an area where you want to learn more.*

## Findings

Code	DEFINITION	Frequency
<b>Challenge-Lack of Technical Infrastructure</b>	Challenges with technology – such as limited bandwidth, unreliable Internet connectivity and/or lack of available resources such as laptops	24
<b>Benefit-Collaboration</b>	A practice of individuals working together in an intellectual endeavor.	23
<b>Benefit-Increased accessibility/flexibility</b>	Technology enabled learning allows for learning anytime and where, letting students learn without the barriers of time and location.	21
<b>Challenge-Design</b>	Challenge of designing courses with the pedagogic principals of COI and integrating technology in a way that supports meaningful learning.	17
<b>Benefit-Increased Interaction</b>	A platform to facilitate an increase of student to student and student to teacher interactions.	16
<b>Benefit-Enhanced learning</b>	Taking student learning to a higher and more meaningful level of learning.	14
<b>Challenge-Cyber Malice</b>	Students engaging in unethical practices and academic dishonesty.	13
<b>Benefit-Social Presence</b>	The ability of learners to project themselves socially and affectively into a community of inquiry.	12
<b>Challenge-Lack of skill set/support &amp; training</b>	Instructors and/or students lack the training, support or skill set to teach/learn with technology.	11
<b>Challenge-Lack of student motivation/participation</b>	The lack of desire to learn and to persist or participate in a course/program.	10
<b>Benefit-Student Engagement</b>	The degree of attention, curiosity, interest, optimism, and passion that students show when they are learning.	9

## 第2日目：2017年10月13日（金）

訪問先：アサバスカ大学本部

Mohamed Ally 教授及び Jessica Scott 氏が同行し、エドモントン中心部から約145km 北に位置するアサバスカ町へ自動車で移動した。エドモントン市内を抜け郊外に出ると、信号がほとんどない直線道路が延々と続き、次第に雪が積もった草原や丘になり、雪化粧をした山地へと変わった。出発して約2時間後、バスはアサバスカの町に到着し、アサバスカ大学の本部がある町外れの丘に登った。



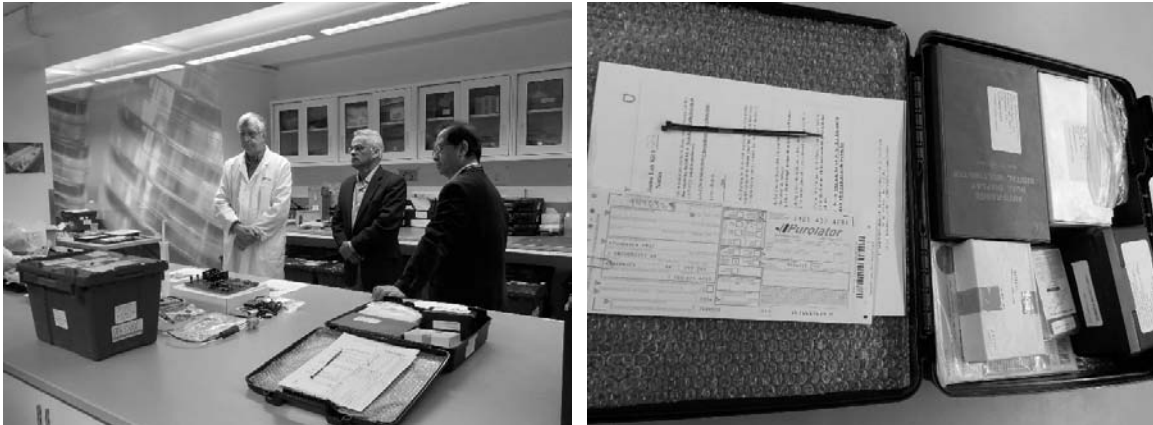
### 8. AU Tour アサバスカ大学本部施設見学

Robert G. Holmberg 名誉教授 Professor Emeritus, Biology 生物学

Martin Connors 教授 Professor, Science and Observatories 科学と天文学

Centre for Science 科学センター

科学センター所属の教授2名が、レンガ作りの2階建ての本館を案内してくれた。始めに、2011年に明るくリノベーションされた多目的実験室に入った。この実験室では、地理学、微生物学、化学、物理学、生物学の面接授業が行われる。またここで準備される、学生の自宅で実験を行うために作られた「ラボ・キット」の説明を受けた。このキットは、受講する学生の自宅（カナダ国内限定）に宅配便で送付するためのもので、送料は授業料に含まれているとのこと。インターネットで情報を得るのではなく、自分で実際に行う実験から得た結果をもとに結果報告するプロセスの重要性を語った。



同建物内には、アサバスカ大学の教職員及び地域住民が子供（19 か月～5 才）を預けるための保育施設（Daycare）も完備されていた。収容定員 24 名のこの施設は NPO によって運営され、設備はアサバスカ大学が無償で提供している。

#### 本館の主な施設・部署

- Main Reception 総合受付
- Cafeteria カフェテリア
- Information Technology Services IT サービス
- Facilities Services 施設サービス
- Human Resources 人事
- Institutional Studies IR 室
- Office of the Vice President 副学長室
- Office of the President 学長室
- Office of University Secretariat 大学秘書室
- Library 図書館
- Governing Council Chambers 運営審議会室
- Boardrooms 会議室（複数）
- Daycare 託児室
- Recreation Area レクリエーション室
- Mailroom 郵便室

このほか、ガラス素材を多く取り入れ本館と対照的なデザインで2011年に建設された、3階建て（6,690 m<sup>2</sup>）の Academic Research Centre（学術研究センター）、そして卒業式等行事を開催する Regional Multiplex（地域多目的大講堂）や運動場があった。本部勤務の教職員は自家用車で通勤するため、駐車場はかなり広く用意されていたのが印象的だった。近隣には University House という教職員が宿泊可能な建物もある。



#### 学術研究センター内の主な施設・部署

- Faculty of Health Disciplines 健康専門学部
- Faculty of Humanities & Social Sciences 人文・社会科学部
- Centre for Distance Education 遠隔教育センター
- AU Information Centre インフォメーションセンター
- Centre for Science 科学センター



## 9. AU Information Centre – Managing Frontline Services

### インフォメーションセンター～窓口サービスのマネジメント



- ① Carla Yeaman 氏 Coordinator コーディネーター  
Information Centre インフォメーションセンター

#### プレゼンテーション概要

イーマン氏は、アサバスカ大学での学習に興味のある一般市民（入学を検討する者）や在学学生からの問い合わせに対応するインフォメーションセンターに、11年間勤務している。放送大学の学生サポートセンター室にあたるこの部署では、4～6週間におよぶ特別な訓練を受けた18名の職員が、月曜日から金曜日の8:30～16:30に対応する。問い合わせ件数は1日約350～500件で、約8割が電話、約2割がHP上の問い合わせフォームからである。

問い合わせ電話の約15%が、順番待ちの保留中に待ちきれず電話を切ってしまうため、インフォメーションセンターの取り組みとして、1件あたりの処理目標時間を3分とし、できるだけ多くの入電への対応に努めている。また、全体の75%にあたる問い合わせをインフォメーションセンターで解決できたという結果も出ている。このように、インフォメーションセンターでは、職員個々の意識及びチーム全体の意識を向上させ、質の高い顧客（学生）対応を確保することに努めている。

問い合わせ内容として、入学（47.4%）及び単位認定試験（26%）に関してが多く、特に試験の仕組みが複雑であるため、電話での説明が難しいと感じている。また、相手の見えない電話を通じての問い合わせでは、コミュニケーションの取り方に特に注意を払っているが、アサバスカ大学の組織及び業務体制が縦割りとなっていることもあり、部署同士の横のつながりが不十分で、情報が共有されないことも度々あり、大学の窓口として困ることがある。また、感情のコントロールが難しい方とのやり取りもあることから、大学はインフォメーションセンター職員の心のケアにも配慮している。

情報：<http://www.athabascau.ca/contact/>

② Jessica Scott 氏 Director ディレクター  
Partnerships & Student Recruitment 連携・学生募集

インフォメーションセンターに問い合わせてきた入学相談者へのフォローアップとして、Eメールにて入学相談ウェビナーの開催及び参加を呼びかけている。1年半前に始めた入学相談ウェビナーは、現在毎月2回（同日の午前中及び夕方以降）、各1時間開催しているが、参加者から好評を得ていて増加を検討中。また、ウェビナーの様子を知りたい人のために、YouTube 及びアサバスカ大学 HP 上で画像と音声を使い20分間の紹介ビデオを公開している。

情報：<http://www.athabascau.ca/discover/open-house/>

## AU INFORMATION CENTRE

*Managing Frontline Service*

Focused on the future of learning



## AU INFORMATION CENTRE



Athabasca University's Virtual Front Door!

[http://www.cdf.org/images/area-how-we-save-the-bay/programs-initiative/studio-group-photo\\_Gettyimages\\_4580432.jpg](http://www.cdf.org/images/area-how-we-save-the-bay/programs-initiative/studio-group-photo_Gettyimages_4580432.jpg)



## Welcome!

### Presentation Overview:

**Introduction to the Frontline**  
*Who we are, what we do*

Service goals  
Service demand  
Service barriers

**People, Process, Technology**  
*How we complete our work*

**Future state**  
*Service integration & enhancements*



## Welcome!

### Our Leaders



**Jerrie Smith**  
Assistant Coordinator/ Trainer



**Carla Yeaman**  
Coordinator

### Our Team



April Thompson  
Crystal Scherer  
Deanna Pacholok  
Donna Parr  
Emily Fisher  
Francine Thompson  
Joanne Weldon  
Jolie Vandervaate

Kathy Clow  
Kevin Gray  
Kimberley Eves  
Monique Pacholok  
Nicole Harrison  
Sandra Rae  
Serena Koons  
Wendy Carswell



## Athabasca University Mandate

*Athabasca University, Canada's Open University, is dedicated to the removal of barriers that restrict access to and success in university-level study and to increasing equality of educational opportunity for adult learners worldwide.*

The **Information Centre** team helps unpack the learning opportunity that AU presents by communicating that we are:

*Flexible and Open  
Affordable  
Committed to Student Success*



## Our Focus:

- To **represent** the AU mandate and serve our students by providing the best possible service with a focus on quality and building an AU connection
- To **guide** students to the information and resources that AU provides in support of student learning goals
- To **present options** that assist students in navigating common issues or barriers that may impact their success



### Our Work:

- Student contact received through phone and webpage forms (email)
- Primary contact from prospective and current AU students on phone queues
- Serving students across the AU lifecycle



### Service goals:

- Average speed of answer (ASA): **3:00**
- Abandon rate: **< 15%**
- Case resolution rate: **75%**
- Prospect record (new contact) generation 25 per day (3 per Attendant)



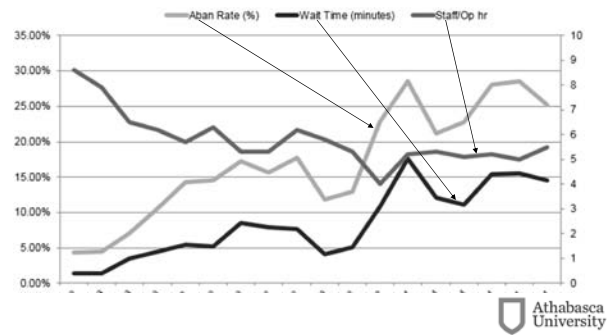
### Service demand:

- Over **52,416** cases resolved in 2016
- Attendants average 40-50 calls per day
- Team averages 350 – 500 calls per day
- 75% resolution rate with referrals made to appropriate AU departments when necessary



### Service demand – metrics:

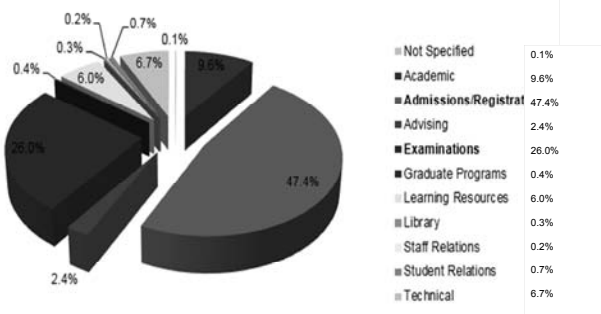
Monitoring service efficiency



### Service demand – metrics:

Monitoring service quality

Percentage of Calls by Category



### Service barriers:

#### Internal:

- Resource constraints
- Volume of work
- Nature of work



#### External:

- Silos – communication gaps
- System and technology issues
- Managing student expectations



## People, Process & Technology

*How we accomplish our work*



Source: exporterstindia.com



## People



*Our greatest investment.....*

- Training
- Coaching
- Quality Assurance Framework
- Learning & Development



## People

### Training

- Comprehensive program (4-6 weeks)
- Modularized approach covering the following topics:

AU Orientation	Student Lifecycle
Customer Service	Student Experience
FOIP – Documentation	Suicide Protocol – Mental Health
Policy & Procedure	Teamwork
Soft Skills	Technology & Systems



## People

### Coaching



Source: garymarsh.net

- On-going team activity
- Based on team value for service quality and focus on continuous improvement
- Aligned with HR performance assessment

Active listening  
Conflict Management  
Emotional Intelligence  
Soft skill development  
Technical competency



## People

### Quality Assurance Framework

<b>Call Opening</b>
Appropriate Greeting - Name & Department Source & Verify Student ID
<b>Call Purpose</b>
Determine reason for call Adhere to checklist points if applicable Referral to website resources & relevant AU systems
<b>Vocal Quality</b>
Adjusting volume and tone Speaking responsively at appropriate pace
<b>Listening and Response</b>
Active listening Personalized conversation Empathize with student situation
<b>Call Etiquette</b>
Use professional language Apologize when there is a problem De-escalation of issue
<b>Call Processing</b>

- Team reference tool - checklist
- Identified components for service quality
- Identified competencies used as foundation for training & coaching



## People



### Learning & Development

- Encourages individual and team growth
- Appeals to diverse learning styles
- Aligned with staff learning plans

Workshops  
Webinars  
Break-out discussions  
Quizzes and gamification



## Process



- **Prospective Student Service**
- **Current Student Service**

**Resolution – Referral – Escalation**



## Technology



### Systems

- Phone (IVR)
- Service tracking (CRM)
- Student Information System (Banner)

### Service channels

- Phone, email, web portals, chat, social media

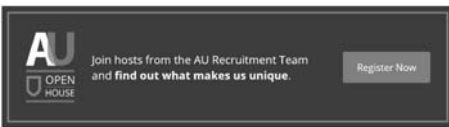


## Webinars & eMarketing

AU Information Centre and Recruitment teams offer monthly webinars.

After 18 months, we were able to determine a 40% impact on student application, enrolment, and course completion.

Email campaigns continue to reach out to AU students and support recruitment and retention.



## Future State.....

Omni-channel service (integration)

Outreach activities - campaigns

Enhanced services



## 10. Quality Assurance at Athabasca University AUにおける質保証について

Dr. Nancy K. Parker 博士 Director ディレクター

Office of Institutional Studies IR 室

### プレゼンテーション概要

(はじめに、オンライン教育についての固陋な神話(「〇〇科だけはオンラインでは指導できない」、「学生はカンニングなど不正行為のし放題だ」、「オンラインは簡単で安上がりだ」、「あまり質の高くない教育だ」など)が紹介され、質の評価に用いられる一般的なインプット項目(例:クラスサイズ、教員数及び質、蔵書数など)、そしてそこから導かれるアウトプットについて説明された。)

カナダ全域を範囲として大学の質保証を行う団体は存在しない。しかし、アルバータ州、ブリティッシュ・コロンビア州、オンタリオ州では、各州で質保証の仕組みを構築している。カナダ国政府には教育省庁がない代わりに、各州政府に権限が与えられ、アルバータ州の場合は、Campus Alberta Quality Council (CAQC) がその役割を果たすことが説明された。

アサバスカ大学を認定している米国の質保証団体 Middle States Commission on Higher Education (通称 MSCHE: 中部高等教育委員会)では、大学組織及び教育上の効率に関する項目を設定し質保証の基準としている。

また、大学の評判を上げることも必要で、そのために大学では毎年、卒業生を対象にアンケート調査を行い、アサバスカ大学での学習を通してどんなスキルが身についたか、また満足度等について把握している。全般的な教育の質に対しては、過去 20 年にわたり 96%前後の卒業生 (Reputation Builders) から満足しているとの回答があった。



## Quality Assurance at Athabasca University

by Dr. Nancy K Parker  
Director, Institutional Studies

## Outline

- Definitions and General Approaches to Quality Assurance (Inputs & Outputs)
- Standards & Regulations
- Processes
- Learning outcome assessment
- Building reputation

*Importance of Transparency  
and Shared Governance*

## Quality

The standard of something as measured against other things of a similar kind; the degree of excellence of something.

<http://www.oxforddictionaries.com/definition/english/quality>

Lee Harvey ... Purpose & Fit

## Persistent Myths about Online Education

- You can't teach [insert subject] online
- You don't know who your students are ... cheating is too easy
- Online courses are easy / should be less expensive (or free)
- It is not a quality learning experience

*In reality there is great online teaching and lousy online teaching. There is great face-to-face teaching and there is lousy face-to-face teaching. You know what the goal should always be? Great teaching ....*

**Martin Bean**, Former Vice-Chancellor  
Open University (UK)

cited in  
<http://www.universityworldnews.com/article.php?story=20141112095616864>

## Input focus

Common for comparative rating scales (QS-THE, USNews, ARWU-Shanghai) to consider:

- Entrance averages of incoming classes
- Number/sizes of 1<sup>st</sup> year classes taught by professors
- Qualifications of faculty (count of Nobel Laureates, Field Medals, Highly Cited)
- Number of books in library



## Reputation Assumed

Direct Entry

From Limited Geography

&/or Economic Privilege



**Not the Majority**

## Outputs & Comparisons

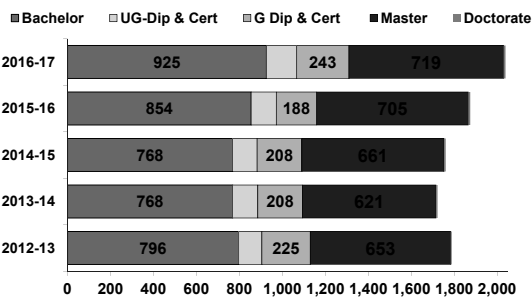
Completion measures:

- Time-to-Degree
- Cohort Graduation Rates

Benchmarking

- National & Provincial Surveys
- Research Grants & Awards

## Credentials Awarded



<http://www.athabascau.ca/aboutau/student-consumer-info/>



Complicating factor of knowledge co-creation



## Quality Assurance Systems in Canada

There are no accrediting bodies in Canada – -  
--Universities Canada ([www.univcan.ca](http://www.univcan.ca)) proxy

Quality assurance mechanisms in Alberta, BC and Ontario

Campus Alberta Quality Council

Degree Quality Assessment Board in BC  
(exempt status as of January 2006)

Post Secondary Education Quality Assessment Board in Ontario (MBA elective courses since 2013)



## Standards & Regulation

- Canada does not have national education ministry
- Provincially licensed to operate
- Council of Ministers of Education of Canada (CMEC) recommended qualification framework
- New programs reviewed by CAQC and approved by Ministry



## CAQC Standards for Programs Delivered in Blended, Distributed, or Distance Modes

*The Campus Alberta Quality Council, in its review of degree programs, is guided by the principle that while instructional methods may differ, expectations of high quality remain the same. The key considerations in assuring the quality of any program are that they are learning driven and that they are informed by excellent research and scholarship not only in the discipline or disciplines addressed in the program but also in teaching, learning and assessment.*

<https://caqc.alberta.ca/handbook/4-program-evaluation/>

18 additional standards (7 Institutional commitment, 3 Program planning and design, 4 Learners support and services, 3 Academic staff)

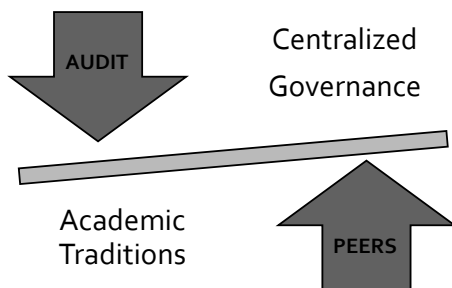


## Ongoing Monitoring

- Program review cycle includes: data collection and analysis, self-study, external reviewers, response to external, program plans update, annual update reports.
- Approved policy and procedures: [http://ous.athabascau.ca/policy/academic/degreeprogramreview\\_pro.pdf](http://ous.athabascau.ca/policy/academic/degreeprogramreview_pro.pdf)
- Subject to CAQC audit



## Cultural Tensions



[http://library.athabascau.ca/files/projects/ecampusalberta/quality/eCampusAlberta\\_QualityEQS2.o\\_Brochure\\_2017\\_FINAL.pdf](http://library.athabascau.ca/files/projects/ecampusalberta/quality/eCampusAlberta_QualityEQS2.o_Brochure_2017_FINAL.pdf)

## MSCHE Accreditation Standards

### Institutional Effectiveness

- Mission, Goals and Objectives
- Planning, Resource Allocation and Institutional Renewal
- Institutional Resources
- Leadership and Governance
- Administration
- Integrity
- Institutional Assessment

## Institutional Assessment

MSCHE Standard 7:

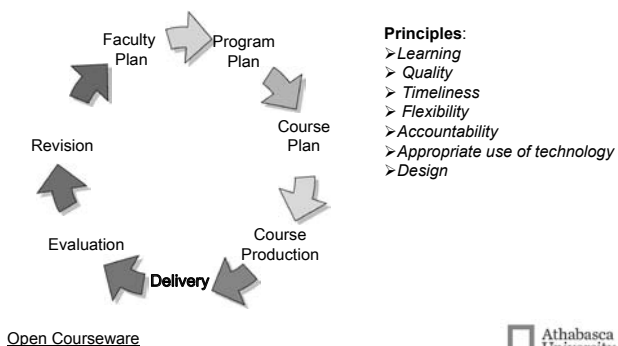
The institution has developed and implemented an assessment plan and process that evaluates its overall effectiveness in: achieving its mission and goals; implementing planning, resource allocation, and institutional renewal processes; using institutional resources efficiently; providing leadership and governance; providing administrative structures and services; demonstrating institutional integrity; and assuring that institutional processes and resources support appropriate learning and other outcomes for its students and graduates.

## MSCHE Accreditation Standards

### Educational Effectiveness

- Student Admissions
- Student Support Services
- Faculty
- Educational Offerings
- General Education
- Related Educational Activities
- Assessment of Student Learning

## Processes



OFFICE OF THE REGISTRAR

### Examination Services

OFFICE OF THE REGISTRAR - EXAMINATION SERVICES - EXAM INVIGILATION NETWORK

Office of the Registrar - Home

Contact Us

Challenge for Credit

Enrolment Services

**Examination Services**

- Online Exams
- Exam Invigilation Network**
- Online Invigilation (ProctorU)

#### Requesting an Exam at AU

[Online - Examination Request Form](#)

[PDF - Examination Request Form](#)

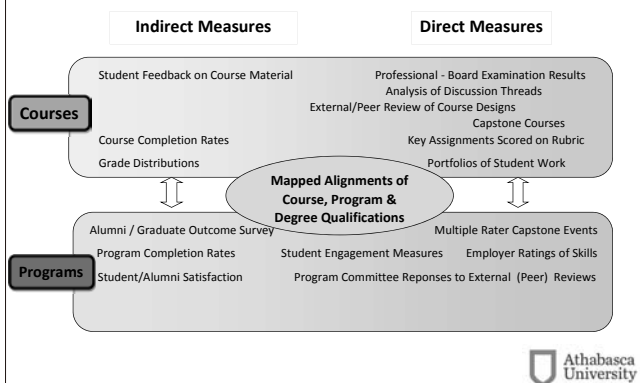
#### Exam Invigilation Network

For your convenience, we have established a network of approved exam invigilation centres within the country of Canada. If you are studying in Canada, you can use the links on the right to find an exam invigilation centre in the province or territory in which you wish to write. If you are studying outside of Canada, you should follow the guidelines below to select a location to write your exam.

#### Virtual Invigilator

The university has entered into a pilot project with ProctorU to allow you the opportunity to write your online exams from the comfort and convenience of any suitable location with internet access while an invigilator supervises you remotely through the use of a webcam and a high speed internet connection. This will allow you to write your exam at any time and at any location that has suitable internet bandwidth.

## Assessment of Learning



CENTRE FOR LEARNING ACCREDITATION  
Prior Learning Assessment and Recognition (PLAR)

### ENRICHMENT, OPPORTUNITY, FLEXIBILITY.

e-Portfolio now available! See menu at left.

PRIOR LEARNING ASSESSMENT AND RECOGNITION (PLAR) - CENTRE FOR LEARNING ACCREDITATION

**CLA - Home**

CLA Staff

Contact the CLA

CLA News

Site Overview

What is PLAR?

Is PLAR For Me?

How PLAR Works

**INFORMATION ON PLAR**

- PLAR FAQs
- How does PLAR work?
- What is portfolio assessment?
- When do I start?
- How long does PLAR take?
- How much does it cost?
- Financial Assistance for PLAR Learners
- What is challenge for:

**YOUR LEARNING PORTFOLIO**

- What is a portfolio?
- What are the parts of a portfolio?
- What does a completed portfolio look like?
- First Steps: How Do I Begin
- Portfolio submission
- Portfolio assessment
- PLAR documents

**CONTACT INFORMATION**

- Centre Staff
- Request Information Online
- Complete PLAR Exit Survey
- Evaluate Us

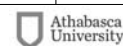
## Reputation Builders



## GOS -- Skills Acquired

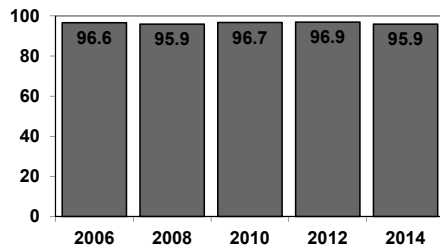
Top Five	%	Bottom Five	%
Learn Independently	86%	Verbal Communication	49%
Written Communication	84%	Intercultural Communication	48%
Critical Thinking	82%	Work related Computer	46%
Work Independently	79%	Mathematical	37%
Research Skills	78%	Specialized tool, software	32%

2017 AET Graduate Outcomes



# Alberta Graduate Outcomes Survey

Percent Satisfied with Overall Quality of Educational Experience at AU Class of....



## 11. AU Library & Scholarly Resources AU 図書館と学術資源について

- ① Elaine Fabbro 氏 Director ディレクター  
Library and Scholarly Resources 図書・学術情報資源
- ② Colin Elliot 氏 Manager マネージャー  
Library Services 図書サービス Web Projects and Services ウェブ事業サービス

### プレゼンテーション概要

図書・学術情報資源は、図書館運営、著作権管理、組織のアーカイブ・記録管理を業務内容とし、司書 16 人、著作権担当 3 人、アーカイブ・記録担当 2 人が勤務している。図書館には、15 万 5 千冊の書籍、33 万の電子ブック、8 万 5 千のオンライン・ジャーナルがあり、学生のリクエストに応じて郵送貸し出しを行っている。

図書館インフォメーション・デスクでは司書や職員が、E メール、電話、ウェブを使って在学生対応を行っている。また在学生向けに毎月 1～3 回チュートリアル及びウェビナーにより、図書サービスに関する紹介を実施している。学生の情報リテラシーの向上のため、ウェブ上の情報資源の活用方法を個人対応することもある。



課題としては、ほとんどの電子ブックが米ドル価格で販売されているため、加ドルとの換算レートが予算に影響するとのことだった。また館内には、学習スペースも用意されているものの、都市部から離れていることもあり利用者は少ない。

## **Athabasca University Library & Scholarly Resources**

- About Library & Scholarly Resources
- Services
- Resources
- How we serve students



## **About Library & Scholarly Resources**

- Department comprised of AU Library, the Copyright Office, and Archives and Institutional Records
- 21 staff in total
  - 16 in Library
  - 3 in Copyright
  - 2 in Archives/Institutional Records



## **About Library & Scholarly Resources**

- Library Collection is a hybrid Print/Electronic collection
  - 155,000 + physical items
  - 330,000 e-books
  - 85,000 full text journals online
  - Streaming audio and video collections



## **Library Services**

- Library Information Desk
- Tutorials
- Webinars
- Virtual Office Hours
- Information Literacy Assessment



## **Services – Library Information Desk**

- Staffed by librarians and support staff
- Wide range of question types
- Email, phone, web forms



## **Services – Tutorials**

- Video/audio/text
- Different technologies
- Subject and tool/resource tutorials



## Services - Webinars

- Library orientation
- Wikipedia & academic research
- Keeping organized as you search
- Google Scholar
- Academic integrity



## Services – Virtual office hours

- Weekly
- Shared screens
- Chat, audio, video



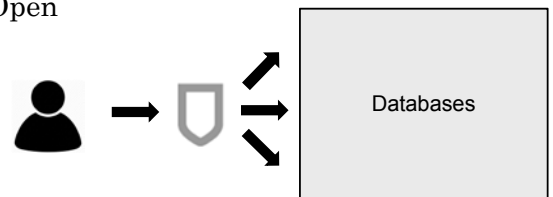
## Services – Information literacy assessment

- Self-assessment tool
- Suggest resources to students, based on their responses
- Increase confidence and develop necessary skills



## Resources – Remote access

- Subscribed
- Open



## Resources – Citation management

- Refworks
- Zotero



## Resources – Digitized collections



## Resources – Repositories

Athabasca University  
Library & Scholarly Resources

**DTheses**  
Digital Theses

Search Theses

Home | About | Contact Us | Privacy Policy

Recently Added

Athabasca University

## Serving students – Where they are

- Information literacy in courses
- Embedded tutorials
- In person orientations



## Serving students – Where they are

Athabasca University  
Library & Scholarly Resources

Home | Find Resources | Get Help | Services | About Us

Popular Links

- All Library Catalogue
- Resources (classified) by Subject
- Research Journals
- Current Guides
- Reference

News & Notifications

- Notifications
- New Materials
- All Library News
- All Library Feedback
- The Landing

CONTACT US

- DIGITAL READING ROOM
- WELCOME VIDEO
- ORIENTATIONS

Athabasca University

## Serving students – Where they are

AU Library

Search Library & Scholarly Resources

Search

Find help for Writing, Citing, & Research

Contact AU Library

Athabasca University

## Serving students – Where they are

### Lesson Objectives, Readings, and Videos

The purpose of this lesson is to explain what unions are, describe their structure, and explain why employees might choose to join them. At the end of this lesson, you should be able to answer the following questions in two to four short sentences:

1. What are the main factors that lead workers to join unions?
2. What is the core logic behind workers joining a union?
3. What is the basic structure of a trade union?
4. What is the role of umbrella union organizations such as labour councils and federations?

### Readings and Videos

McQuinn, Chapter 4: "The Structure of Canadian Unions"

McQuinn, Chapter 5 pp. 113-124 enjst: "The Organizing Campaign"

Freeman, R. (2007). Do workers still want unions? More than ever. Washington: Economic Policy Institute.

Freeman, R. (2007). Do workers still want unions? More than ever. Washington: Economic Policy Institute.

### Videos

VIDEO: Trade Union Congress, June 29, 2011. What Have the Unions Ever Done for Us?

VIDEO: Nevan Ng, March 3, 2012. The Power of Union is Strength.

Please look at the Readings and view the Videos for this unit before diving into the Lesson Notes.



ありがとうございました

Elaine Fabbro  
elainef@athabascau.ca

Colin Elliott  
coline@athabascau.ca



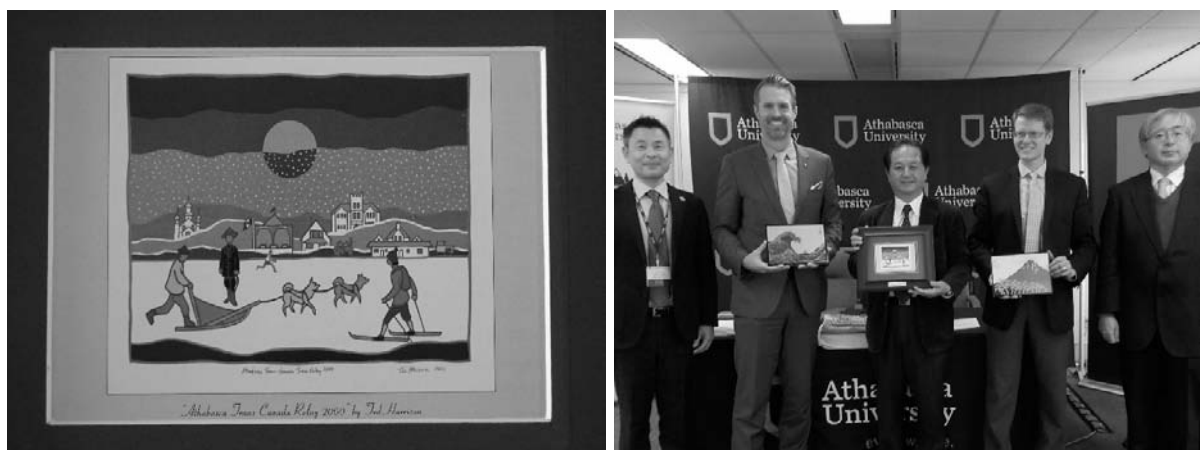


## 12. Signing of the Agreement 大学間協力交流協定書の締結

エドモントン・サテライトキャンパスに戻り、Neil Fassina 学長が参加して協力交流協定書の締結式に臨んだ。協定書の本学部分には、あらかじめ来生学長の署名がされており、現地では岩永附属図書館長が学長代理として出席した。両大学長により署名された協定書を前に固い握手が交わされ、今後の更なる協力関係の発展を約束した。



その後両大学間で記念品の交換が行われ、放送大学からは、本学ロゴ入りの浮世絵をもとにした飾り楯やのれんが手渡された。アサバスカ大学からは、カナダで活躍する有名な画家 Tedd Harrison の絵「Athabasca Trans Canada Relay 2000」(複写)が友好の証として送られた。



## おわりに

10月半ばの2日間、気の早い降雪に見舞われたカナダ・アサバスカ大学訪問であったが、キャンパスではその寒さを吹き飛ばす大変温かい歓迎を受けた。事前に本学側の訪問目的及び調査希望の内容が連絡されており、それに応えてくれたアサバスカ大学側の協力によって綿密なスケジュールの調整・準備ができていたため、非常にスムーズな見学・ヒアリング・意見交換が可能となった。対応に当たっていただいた学長以下の主要な教授陣は、研究室で自分の研究に没頭している研究者というよりも、遠隔教育の方法の開発・改善と質の維持・向上に軸足を置く教育者・教育管理者として活動しているという印象を受けた。

アサバスカ大学は、基本的に、教養教育に重点を置かず、専門的職業に関わる学部・学科（ビジネス学部、健康保健学部、科学技術学部など）中心に構成され、それ故、若い学生のための大学という印象を受けた。科学技術学部の授業では、実験キットを学生に郵送し、実際にテキストにしたがって実験した上でレポートを提出させるといった指導もあり、ネット上のデータの二次利用といったオンライン授業とは一線を画している姿勢も感じられた。

カナダ唯一の遠隔公開大学であるアサバスカ大学では、いつでも、どこでも、全ての人々に学習を提供するため、障がい者に対しても手厚く配慮がなされていた。担当の係には障がいのある職員も在籍し、自らの経験を活かし業務にあたっていたのが印象的であった。今回のプレゼンターの一人もそうした障がい者（強度の弱視）の一人であった。

本学の学生サポートセンターにあたるAUインフォメーションセンターでは、日々約20名の職員が電話及びメールでの対応に当たっている。本学同様、インフォメーションセンターの職員には、何よりも学生とのコミュニケーション力が最も重要な能力として求められていた。担当する職員の精神面への配慮が必要だという点に関しても、放送大学と相通ずるものがあると感じた。

一方、放送大学とは異なり、出願及び学生対応は基本的に全て遠隔（Web または電話）で行うため、アサバスカ本部にのみ学生受付窓口が設置されている。アルバータ州内2箇所（エドモントン、カルガリー）のスタディセンター（キャンパス）は、基本的に試験のための会場である。質及び量ともに水準の高い放送大学の学習センターシステムのような施設は整備されていなかった。ほぼ完全にオンライン化された授業体系ともあいまって、遠隔公開大学の一つの完成形を見る思いがした。

今回の訪問を通じ、アサバスカ大学は、放送大学との種々の交流を復活させ、以前にも増して強い関係を持つことを強く希望していると感じた。全体的に、形式にとどまらない人的交流や情報交換、コンテンツの共同開発あるいは利用といった実質的な友好関係を真に期待しているという印象を受けた。

（岩永雅也記）

# 資料

放送大学の訪問スケジュール (Program Schedule)  
開会挨拶文 (Welcome Address)  
一般事項比較表

## Open University of Japan Visit 放送大学の訪問スケジュール

### Program Schedule

**Thursday, October 12**  
**Edmonton**  
**PHT 1222**  
**10月12日(木)**  
**エドモントン**

8:30 am

- Meet in lobby of Holiday Inn Express ホテルロビー集合
- Introductions 自己紹介
  - Open University of Japan 放送大学
    - Prof. Masaya Iwanaga, Director of the Library 岩永附属図書館長
    - Prof. Tsuneo Yamada, Informatics 情報コース山田教授
    - Mr. Kenjiro Jin, Deputy Division Head, General Affairs Division 総務課神課長補佐

9:00 – 10:00 am

- Welcome to Athabasca University 「アサバスカ大学への歓迎会」
  - Opening remarks delivered by Rick Harland, Vice-President, University Relations  
開会挨拶 リック・ハーランド副学長（大学連携担当）

10:00 – 10:15 am

- Coffee break コーヒーブレイク

10:15 – 11:30 am

- Open University of Japan presentation + Q&A 「放送大学の概要説明及び意見交換」
  - Open to AU Executive Team and Faculty Deans  
アサバスカ大学執行部と教員に公開

11:30 – 12:30 pm

- Lunch break 昼休憩

12:30 – 1:30 pm

- Learner Support Services– Serita Smith, Coordinator, Advising Services and Carrie Anton, Assistive Technologist, Access for Students with Disabilities  
「学習者サポート」  
セリタ・スミス氏（学業アドバイス、コーディネーター）  
キャリー・アントン氏（障がい学生サポート、支援技術者）

1:30 – 2:30 pm

- Exploring Research Synergies – Dr. Donna Romyn, Associate Vice-President, Research  
「研究シナジーの探求」 ドンナ・ロミン博士、準副学長（リサーチ担当）

2:30 – 2:45 pm

- Coffee break コーヒーブレイク

2:45 – 3:45 pm

- AU Course Development – Hongxin Yan, Senior System Analyst  
「オンラインコース開発について」 ホングキン・ヤン氏、シニアシステムアナリスト

3:45 – 4:30 pm



**Open University of Japan AND Athabasca University:  
Securing our Partnership: Welcome Address ( 開会挨拶文 )  
Thursday, October 12, 2017**

Rick Harland  
Vice-President (Acting) University Relations  
Athabasca University  
Prepared by: Heidi Staseson

Good Morning, AND WELCOME.

TREATY SIX RECOGNITION

Before we begin this morning, I would like to take a moment to recognize the traditional treaty territories where we are gathered, and the original peoples who were present at the making of Treaty 6.

This formal part of the opening message, might be of cultural interest to our visiting friends from Japan, who join us today. In fact, this important treaty-territory recognition may even represent one of your debut lessons in Canadian and Alberta culture.

I'll explain:

By opening this welcoming message, publicly and verbally recognizing our forbears' significant role as the original inhabitants of our building's land and location – its roots — if you will, it demonstrates the proper “Canadian Way” — which is to honour and respect those whose presence paved the way for everything that happened, and is yet to happen, from this land.

Our building, to be clear, is located on the Treaty 6 territory which was named by the Nehiyaw (Plains Cree) — its most recent inhabitants. By following this cultural convention which recognizes that the land on which we gather now — is indeed Treaty 6 territory — and, as such, is a traditional meeting ground for many Indigenous Canadians, we honour the latter's historical and present-day pedigree as this territory's original and true inhabitants.

And there's your Alberta history 101 ! And with that, I'll begin:

Thank you, everyone, for gathering here today in Edmonton — and a very special and warm welcome to our friends from The Open University of Japan who have come such a long way to join us at Athabasca University ... To connect and to collaborate with one another on ... what I am sure will be ... a most fascinating and enriching next couple of days.

... Days that will result in the official future positioning of a new, knowledge-laden and rewarding partnership between our two universities.

My name is Rick Harland and I am AU's acting Vice-President of University Relations — which, actually is a newly revamped Division at AU, replacing our former Advancement division — to encompass a wider and more diverse set of business units.

I understand that, unfortunately, your Vice-President, Ikeda Tatsuhiko san was unable to join us here today. This is not, however, a lost opportunity — as he has graciously informed us he is looking forward to meeting us next week at our AU events in Toronto!

So, in Ikeda Tatsuhiko san's place, on behalf of Athabasca University, I'd like to extend a very sincere welcome to: Iwanaga Masaya san. Iwanaga Masaya san is the Open University of Japan's Director of the Library. Welcome, Sir.

And, to his colleagues here today: I am honoured to welcome each of you, as well: Yamada Tsuneo san: A Professor within the Department of Informatics and Centre for Open and Distance Education; and Jin Kenjiro san, the university's Deputy Head of the General Affairs Division.

Welcome gentlemen! It is wonderful that your group has travelled such a great distance, to grace our university with your wisdom, academic prowess, cultural insight and expertise.

Your presence here is welcomed and appreciated. And we look forward to benefiting from your knowledge, know-how, and to engaging in vibrant discussions with you, around the learning innovations that you and your OUJ colleagues have spearheaded, led, and, as evidenced by your presence here today, continue to build upon, with a desire to grow your post-secondary provisions.

I also want to welcome our own AU faculty members who are here representing our Centre for Distance Education – Dr. Marti Cleveland-Innes, Professor and Chair of the CDE, and Dr. Mohamed Ally, the Centre's Interim Chair.

Both Marti and Mohamed devote significant care, attention and passion toward creating, developing and championing much of the outstanding research and innovation, and educational services and their delivery models that AU stands behind.

They are especially committed to their roles of teacher and mentor for so many of our learner proponents — both past and present — and their academic contributions to Athabasca University have been invaluable.

I am certain that, over the next two days, their encouragement, expertise and infectious enthusiasm will bring an added energy and resonance here in Edmonton and in Athabasca — one that will punctuate the many great things that are possible when forming a partnership between two exceptional education providers — like the OUJ and AU.

And MOHAMED: On behalf of our university, I would like to thank you, for your steadfast support and commitment in assisting with this special and monumental visit by our new friends and colleagues from Open University Japan. So, again, a very sincere and hearty welcome, and a most-deserved ‘thank-you,’ to each and every one of you.

Here at AU, we understand that it is a luxury and a privilege for our researchers to have the ability (like they do) — to conduct their work from a place as resource-rich as Athabasca University. So, naturally, we share in heralding The Open University of Japan’s own great news story: the fact that you recently opened your doors to your own brand new centre: The Centre of Online Education.

Congratulations! That is spectacular. And for those of you here today who aren’t familiar with this recent milestone for the OUJ, I’ll provide a little context:

The OUJ established its Centre of Online Education to provide its students with a full-scale, robust online education, that would combine both administrative and faculty functions under a single unit. Also impressive, is the fact the OUJ has 50 Study Centers located on various public-and-private university campuses and Japan-based municipal facilities. It is from these spaces that the OUJ provides its learning access through its popular delivery platforms including its broadcast lectures as well as its classroom-led instruction.

Equally impressive is – that while your university has expressed a deep interest in grasping a greater foothold within the open-and-distance learning space, globally, the fact that you are already in the market, equipped with more than 70 satellite- and audiovisual accommodations throughout Japan — from which you deliver your education models — barrier-free, from a geographical standpoint — is certainly a huge step toward fulfilling that greater goal.

That unique geographical access that we at AU provide for our learners, is something that both of our institutions share from a mission perspective. And, on this note, I would like to reinforce the fact that Athabasca University is more than happy to assist the Open University of Japan as you embark upon further developing and strengthening your own open-online delivery models.

Now, on to the subject of Japan — and Athabasca University’s relationships and genuine vested interest in the Asian post-secondary marketplace. AU has deep experience with our post-secondary partners from Asia. Our expertise and competitive strengths in post-secondary, online and distance learning have allowed us to increase that engagement with the various technology and business sectors in the Asian educational space.

Japan happens to be a significant international economic partner for the province of Alberta, ranking third among our top exporters and accounting for 15 per cent of our non-U.S. exports. Up until last year, for a four-year period, the total domestic exports from Alberta to Japan averaged \$1.8 billion annually — with much of this investment driven by our export of canola seed, coal, pork, wheat and chemical wood pulp.



We also can boast a plethora of strong business ties with Japan, as well as numerous cultural and sports exchanges. But, of particular significance to you, our partners in post-secondary education, is the impressive and long list of initiatives Japan's universities have undertaken with Alberta's university providers.

For example, through the Campus Alberta Grant for International Learning, Alberta's Ministry of Advanced Education provides our province's post-secondary institutions with the funding that enables short-term study-abroad programs in overseas countries, including Japan.

And between 2015 and 2016, there were 420 visa students from Japan that were enrolled in Alberta's publicly funded post-secondary institutions. Another fun fact involves one of AU's provincial post-secondary partners: MacEwan University — which, in 2009, signed a student exchange agreement with Nagoya Gakuin University.

MacEwan — which we fondly refer to as "Mac U," also signed an agreement with Fuji Women's University to participate in MacEwan's ESL Partnership Program that provides these Japanese learners with the ability to study ESL for one or two terms.

There are so many more related Japan-Alberta statistics. The point I'm trying to make here is that, there are, no doubt, strong ties between Alberta and Japan — and between Alberta and other Asian business partners. And, especially for us at AU, an expressed interest by these partners and prospects wishing to learn from our experience and successes.

We actually have A LOT going on right now with other Asian institutions, including Beijing Normal University. Just this past August, a delegation from BNU visited us here in Edmonton as part of AU's ongoing partnership with that university.

Our partnership with BNU began back in 2009, where our two institutions embarked on joint-research and resource-sharing initiatives. Since that time, we have developed a longstanding and mutually beneficial alliance which, just two years ago, was reaffirmed by a new partnership agreement between our two universities.

And, may I say: It would be absolutely marvelous if this gathering here today and tomorrow, with the Open University of Japan, and resulting in our MOU signing could, in fact, be the start of a similar kind of synergistic partnership.

Your visit represents the second in a new series of AU-ASIA, in-person, educational initiatives, that AU began undertaking since that BNU visit last summer. We are continuing this series through this fall, where we will also be meeting with The Open University of China and The Open University of Guangdong. There is just so much fascinating opportunity here for collaborative-learning and knowledge-sharing with the Asia post-secondary space.

I have only been with AU three-and-a-half years, but in this time, I have been marveled by what I have learned regarding the significant knowledge-sharing initiatives and joint-frameworks that are continually emanating from the important relationships between AU and our Asian partners in post-secondary.

Things like the Transfer and Sharing of Knowledge through Mobile Learning Systems. Or The Construction of Social Knowledge Networks and Learning Content Across Multiple Technological Devices. These are but a few of the educational inroads we have made by virtue of these powerful alliances.

There is no question of it: our academic business partnerships are very important to us here at AU. Indeed, universities like ours, when partnered with other research-driven, globally connected institutions, have the ability to bring an extraordinary amount of technological exploration, talent and innovation to the forefront of these relationships — as well as to the other global university communities that represent open-and-distance education.

Over the next couple of days, we look forward to this face-to-face, intimate and marvelous exchange with the OUJ — leading up to, of course, the potential partnership, “first-steps” and forthcoming signing tomorrow of a Memorandum of Understanding (MOU) between our two institutions.

Think of all the potential new opportunities and academic avenues this MOU will enable our universities to collectively explore! We have a fabulous opportunity here to share our respective wisdom with one another — both professionally and personally.

From the ways in which we connect with our communities, our friends, our families — to those particular pursuits we enjoy partaking in when we are not working!

Of course, we at AU, should give credit where credit is due: And that is by acknowledging the fact that your visit here today, actually stems, from our President, Dr. Neil Fassina’s recent trip to Nancy, France, where he attended a conference.

It was there that Dr. Fassina had the honour and privilege of meeting the OUJ’s Vice-President, Ikeda Tatsuhiko san. Following the Nancy conference, the OUJ expressed the opportunity to visit AU in coordination with the ICDE World Conference on Online Learning in Toronto.

And, as they say, the rest is history!

To be sure: as these two days progress — many of you will engage in some fascinating conversations around the latest projects you’re working on, your findings, visions, insights and remarkable possibilities that have emerged from your work. This valuable time together will also enable us to reflect on our combined successes and dynamic discoveries, to date. Perhaps even to sprout the first seedlings of new and innovative ideas.

And, certainly, come tomorrow, a new and exciting academic alliance will be secured — by virtue of the strengths of our shared centres of knowledge, and in our respective track records of providing excellence in online, distance education — through the delivery models thereof — and, of course, by our outstanding achievements in academic research and innovation.

Now, just before I wrap up — I would like to provide you with a glimpse of Athabasca University and a little bit about who we are — and from whence we came from.

From our humble beginnings nearly 50 years ago, through to the present day and, in relation to Canada — which, by the way, did you know that we recently, this past summer celebrated our 150-year anniversary of Confederation? It was a big cause for celebration all across this country.

But I digress....

Ever since those very early days, 50 years ago, our mission and vision was to be a world LEADER in open, online and distance learning. And, over the years, I am pleased to humbly say that, INDEED, we have reached this goal. We ARE that leader.

(Of course, we'd like to think that's why you are here today – and why you selected AU to partner with and share best practices in online distance learning).

AU'S ethos is centered on the notion that ANYONE, ANYWHERE, AT ANY TIME, can enrol in our programs and courses. And, let's face it: when your model is one of accessibility and flexibility in learning, it is really very simple to stand on that offering — as you from OUJ — each know well!

Last fall, right around this time, AU benefited from the arrival of a new President — Dr. Neil Fassina. I mentioned a minute ago that our goal a long time ago was to be recognized as the LEADER in OPEN, ONLINE AND DISTANCE LEARNING. And, moreover, that we achieved that.

But, the fact is that — like any living, breathing entity that grows older every year — we needed some new spring in our step; a re-charge, if you will. And, that is precisely what Athabasca University got, in the appointment of Dr. Fassina.

Our President, Neil Fassina, is a visionary leader. He is decisive. He has vast experience leading transformative change. And he believes strongly in the mission of Athabasca University.

That mission is still, to this day, to remove any barriers and increase the quality of post-secondary opportunities for each of our adult learners, worldwide. After all, they ARE the living proof of our mission's success.

Neil's vision for AU is the same as it once was 50 years ago. The only difference is that now, all these years later, it is refined, re-tooled, re-focused. And, that vision has now placed us at a NEW and DIFFERENT starting line: one that will lead us toward an even brighter and superior path forward.

This new path also forms the roadmap to Athabasca University's newly announced Strategic Plan. Our Plan is entitled *Imagine If ... Transforming Lives, Transforming Communities*.

It forms a part of our new vision for Athabasca University that will put our students front-and-centre — in everything we do, in the face of every decision we make — and in every step we take along that path — our Plan has our learners' best interests as its guiding principle.

So, on behalf of our Strategic Planning Working Group, I am pleased to share with you that we are now seeking feedback on the preliminary draft version of our Plan - from the internal AU Community via the intranet.

Right now, we are seeking our internal stakeholders' feedback in order to determine our next steps - and how well our draft plan holds together, and what factors may need to be shifted, or adapted, to make the plan stronger. And all of this is to achieve the end of AU's primary focus — which is to build a resilient future for Athabasca University.

Our Strategic Plan is all about the future of AU: and creating the path forward that will unite our entire university community, and gives us a collective sense of identity. Our next steps once we receive this vital feedback from our internal members is to start on the next version of our Strategic Plan.

On behalf of myself, Dr. Neil Fassina, and the Athabasca University Board of Governors, we are really excited about the new path this institution is charting. And, importantly, I'm happy to tell you that this new path for AU has the full and enthusiastic support of our Board as well as the full support of the Government of Alberta.

Along with the remarkable and exciting developments that have already begun to roll out in our quest to retain and revitalize our position as a global leader in open-and-distance learning, right now, marks the start of a new phase for our university: one that is positive, progressive and places AU at the said forefront.

So, that, special guests, in a nutshell, is where we're at! We have a terrific history as a university. And, plain and simple: now is the time to look to an even greater future. And that future, includes, we sincerely hope, a fruitful partnership with The Open University of Japan.

What an exciting next two days we have in store for us! Our room today is filled to the brim with brilliant thought leaders. And, I can honestly say that Athabasca University is invigorated by the prospect of aligning with your academic excellence.

Again, just imagine what our two, universities might be capable of doing together! I will reiterate from earlier – that Athabasca University’s business partnerships are extremely important to our institution. The vast amounts of knowledge, research strengths and capabilities that are unleashed when we form these specific academic partnerships — is second to none.

And, ultimately, for all of us here at AU: The blending of our work and our achievements in post-secondary education, through a potential partnership between our two universities will undoubtedly contribute impressively to the scholarly insights and world-class innovations that we, at Athabasca University, are so proud to continually provide our more than 40,000 learners, across Canada and throughout the world.

This week, we look forward to a whole lot of collaboration and thought-provoking discussions with the OUJ. Conversations that are united in their focus on research and innovation and delivering that to students from a distance.

By examining issues that are timely and relevant to our work, and by sharing these with one another, here in Edmonton, we will certainly be in good stead to achieve great discoveries and new successes in our service deliveries of online and distance education.

So once again, thank you very much, everyone, for your participation and enthusiastic collaboration here at AU. I know I’m prepared to be riveted and amazed by the many intricate threads of information your collective inquisitive minds are sure to gather over the coming days.

I look forward to the brilliant discourse that will emerge with respect to your research and insights. And when the two days are concluded, we should all be sufficiently revitalized and re-charged for going back to our respective virtual ‘offices’— continents apart!

I’m look forward to getting to know you and to hear about some of the stimulating conversations that come from Day 1 of this dynamic gathering. I hope you enjoy your time at AU, both in our Edmonton office, and in Athabasca, at our campus. And that while you’re at it — that you have a lot of fun!

Thank you, everyone. Have a terrific event!

一般事項比較表

大学名 (英語名)	放送大学 The Open University of Japan	アサバスカ大学 Athabasca University
設立	1983年	1970年 (遠隔教育大学として1972)
在籍学生数 (2017年)	90,807名	約40,000名
教職員数 (非正規含む)	3,479名 (2017年4月時点)	1,133名 (2017年3月時点)
2016年度予算 (うち政府の助成%)	約156億623万円 (日本国政府58.6%)	円換算値: 約123億6600万円 (アルバータ州政府36%)
授業料 (典型的な学士号取得)	約71万円	約154~585万円 (居住地、年齢等で異なる)
本部所在地	首都圏	地理的な州中央部
本部以外の施設	学習センター 50 サテライトスペース 7	サテライトキャンパス 2 (エドモントン市、カルガリー市)
出願要件	(学士) 高校卒業か同等以上の学力 (修士) 学士号取得か同等以上の学力 (博士) 修士号取得か同等以上の学力 (科目受講) 15才以上	(学士) 18才以上 (修士) 学士号取得 (博士) 修士号取得 (科目受講) 18才以上
入学時期	(学士) 年2回(4月・10月) (修士・博士) 4月 (科目受講) 年2回(4月・10月)	(学士) 毎月 (修士・博士) プログラムによる (科目受講) 毎月
利用メディア	TV、ラジオ、インターネット、 CD、DVD	インターネット
学生サポート施設	学習センター、学生サポートセンター、 障がいに関する学生支援相談室、 ハラスメント相談窓口等	インフォメーションセンター、学生カウ ンセリング、学業アドバイス、数学サポ ート、ライティングサポート、ITヘルプ デスク等
学生サポート員	教職員	教職員(チュータ含む)
面接授業 (グループ授業)	各学習センター、サテライトスペース で実施	州内の協力連携機関にて実施
単位認定試験会場	学習センター等	・本部、サテライトキャンパス(無料) ・州内の協力連携機関、学生の自宅、カナ ダ大使館等(有料)
単位認定試験時期	年2回固定 (7月下旬~、1月下旬~)	(学士・科目受講) 毎月: 在籍期間内の自由設定 (修士・博士) プログラムにより異なる
図書館の蔵書	・本部図書館・SC図書室 約79.6万冊 ・Eブック 約6.8万タイトル ・オンラインジャーナル 約4,600タイトル	・本部図書館 約15.5万冊 ・Eブック 約33万タイトル ・オンラインジャーナル 約8.5万タイトル

編集・著作	放送大学 総務部総務課 国際連携係 〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11 Tel : 043-276-5111 E-mail : kokusai@ouj.ac.jp URL : <a href="http://www.ouj.ac.jp/">http://www.ouj.ac.jp/</a>
報告書発行	2018年2月